



ネットワークビデオレコーダー

ユーザーマニュアル

法的情報

本書について

本マニュアルには、本製品を使用および管理するための説明書が含まれる。以下、写真、チャート、画像、その他の情報は、単に説明のためのものである。本マニュアルに記載されている情報は、ファームウェアの更新その他の理由により、予告なく変更される場合があります。本マニュアルの最新版は、当社ウェブサイトでご確認ください。本マニュアルは、製品のサポートについて訓練を受けた専門家のガイダンスと援助を受けて使用してください。

商標の確認

記載された商標およびロゴは、それぞれの所有者の特性である。

 HDMI, HDMI High-Definition Multimedia Interface、およびHDMI Logoは、HDMI Licensing Administrator, Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

法的免責事項

適用される法律によって許可される最大限の範囲まで、本マニュアルおよび記載される本製品は、そのハードウェア、ソフトウェアおよび会社とともに、「現状のまま」および「すべての障害およびエラーを伴って」提供される。当社は、明示かまたは黙示かを問わず、特定目的に対する商品性、満足できる品質または適合性を含め、いかなる保証も行わない。貴社による本製品の使用は、貴社自身のリスクである。いかなる場合にも、当社は、特に、契約違反、不法行為(過失を含む)、本製品の使用に関連して、たとえ当社がかかる損害または損失の可能性について通知を受けていたとしても、契約違反、不法行為(過失を含む)、本製品の責任またはその他に基づくかを問わず、事業利益の喪失、事業の中断またはデータの喪失、システムの腐敗または文書の喪失、破損に対する損害を含む、特別損害、派生的損害、付随的損害または間接的損害につき、貴社に対して責任を負わない。

貴社は、インターネットの本質が固有のセキュリティ・リスクを規定しており、当社は、CYBER-ATTACK、HACKER ATTACK、VIRUS INFECTION、またはその他のインターネット・セキュリティ・リスクに起因する異常な操作、プライバシー・リーク、またはその他の損害に対して一切責任を負わないことを認めるが、当社は、必要に応じて、タイムリーな技術サポートを提供する。

お客様は、本製品をすべての適用される法律に準拠して使用することに同意し、お客様の使用が適用される法律に準拠することを保証する単独の責任を負います。特に、貴社は、制限を設けることなく、著作権、知的財産権、またはデータ保護およびその他のプライバシー権を含め、第三者の権利を侵害しない方法で本製品を使用することに責任を負う。貴殿は、本製品を、大量破壊兵器の開発または製造、化学兵器または生物兵器の開発または製造、核爆発性または危険性のある核燃料サイクルに関連する文章内の活動、または人権侵害の支援を含む、いかなる禁止された最終用途にも使用しないものとします。

本マニュアルと適用される法律との間に矛盾が生じた場合、後者が優先する。

規制情報

FCC情報

コンプライアンス責任者が明示的に承認していない変更または修正は、装置を操作するユーザーの権限を無効にする可能性があることに注意してください。

FCCコンプライアンス:この装置は、FCC規則のパート15に従って、クラスAデジタル装置の限界に適合することが試験され、見出されています。これらの限度は、居住地域における設置において、有害な干渉から適度に保護するために設計されています。この装置は、無線周波エネルギーを生成、使用し、放射する可能性があり、指示に従って設置および使用されなかった場合は、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。しかし、特定の設置条件で障害が発生しないことを保証するものではありません。この機器が無線およびテレビの受信に有害な干渉の原因になったかどうかは、機器をオフにしてオンにすることによって判定できますが、こういったことを引き起こす場合は、以下にある対策のひとつあるいはいくつかを行って干渉を無くすよう試してみることをお勧めします。

- 受信アンテナの向きを変えるか、または位置を変える。
- 製品と受信アンテナの距離を離す。
- 受信アンテナが接続されているコンセントとは異なる回路を使うコンセントに本製品を接続する。
- 販売店またはラジオ/テレビ技術者に相談する

FCC条件

本装置は、FCC規制のパート15に適合しています。運用は、以下の二つの条件に依存します。

- 本デバイスが有害な干渉を引き起こすことはありません。
- このデバイスが、望ましくない操作の原因となる妨害を含め、被った妨害を受け入れる必要があること

EU適合性宣言



本製品、および、該当する場合、供給される付属品も「CE」でマークされており、したがって、EMC指令2014/30/EU、LVD指令2014/35/EU、RoHS指令2011/65/EUに記載されている該当する調和された欧州規格に準拠している。



2012/19/EU (WEEE指令):この記号でマークされた製品は、欧州連合では、未選別の都市廃棄物として処分することができない。適切にリサイクルのために、同等の新設備を購入したら、この製品を地元の供給業者に返却するか、または指定された回収地点で処分する。詳細については、<http://www.recyclethis.info>を参照してください。



2006/66/EC (バッテリー指令): 本製品には、欧州連合で分別されていない一般廃棄物として廃棄できないバッテリーが含まれています。特定のバッテリー情報については、製品のマニュアルを参照してください。電池は、カドミウム(Cd)、鉛(Pb)、または水銀(Hg)を示す文字を含むことができるこの記号でマークされている。適切なリサイクルを行うためには、電池をサプライヤーまたは指定された回収場所に戻してください。詳細については、<http://www.recyclethis.info>を参照してください。

カナダ産業ICES-003準拠

この装置は、CAN ICES-3(A)/NMB-3(A)規格要件を満たす。

D'SSECURITY

適応機種

本取扱説明書は、以下の機種に適用されます。

シリーズ	型式
DS-7100NI-Q1	DS-7104NI-Q1
	DS-7108NI-Q1
DS-7100NI-Q1/P	DS-7104NI-Q1/4P
	DS-7108NI-Q1/8P
DS-7100NI-Q1/M	DS-7104NI-Q1/M
	DS-7108NI-Q1/M
DS-7100NI-Q1/P/M	DS-7104NI-Q1/4P/M
	DS-7108NI-Q1/8P/M
DS-7600NI-K1	DS-7604NI-K1
	DS-7608NI-K1
	DS-7616NI-K1
DS-7600NI-K1/P	DS-7604NI-K1/4P
	DS-7608NI-K1/8P
DS-7600NI-Q1	DS-7604NI-Q1
	DS-7608NI-Q1
	DS-7616NI-Q1
DS-7600NI-Q1/P	DS-7604NI-Q1/4P
	DS-7608NI-Q1/8P
DS-7600NI-Q2	DS-7608NI-Q2
	DS-7616NI-Q2
DS-7600NI-Q2/P	DS-7608NI-Q2/8P
	DS-7616NI-Q2/16P
DS-7600NI-K2	DS-7608NI-K2
	DS-7616NI-K2

ネットワークビデオレコーダーユーザーマニュアル

シリーズ	型式
	DS-7632NI-K2
DS-7600NI-K2/P	DS-7608NI-K2/8P
	DS-7616NI-K2/16P
	DS-7632NI-K2/16P
DS-7700NI-K4	DS-7708NI-K4
	DS-7716NI-K4
	DS-7732NI-K4
DS-7700NI-K4/P	DS-7708NI-K4/8P
	DS-7716NI-K4/16P
	DS-7732NI-K4/16P
DS-7700NI-Q4	DS-7708NI-Q4
	DS-7716NI-Q4
DS-7700NI-Q4/16P	DS-7708NI-Q4/8P
	DS-7716NI-Q4/16P
DS-8600NI-Q8	DS-8608NI-Q8
	DS-8616NI-Q8

シンボル条約

本明細書で見られる記号は、以下のように定義される。

記号	説明
 危険	取扱いを誤った時に、死亡もしくは重傷を負う可能性が想定されるものをいいます。
 注意	回避しないと、装置の損傷、データの損失、性能の劣化、または予期しない結果を招く可能性のある危険な状況を示します。
 注	本文の重要なポイントを強調または補足するための追加情報を提供します。

D'SSECURITY

安全上のご注意

- すべてのパスワードおよびその他のセキュリティ設定を適切に構成することは、設置者および/またはエンドユーザーの責任となります。
- 本製品の使用にあたっては、国・地域の電気安全規制を厳守しなければなりません。
- プラグを電源ソケットにしっかり接続します。1台の電源アダプタに複数のデバイスを接続しないでください。付属品・周辺機器の着脱は、装置の電源を切ってから行ってください。
- ショックハザード！メンテナンスの前に、すべての電源を切断してください。
- 装置は、アースされた電源コンセントに接続する必要があります。
- ソケットコンセントは、装置の近くに設置され、容易にアクセス可能でなければならない。
- ⚠ 危険な通電状態を示し、端子に接続された外部配線には、指示を受けた人が設置する必要があります。
- 不安定な場所には絶対に置かないでください。装置が落下し、人が重傷を負ったり、死亡したりすることがあります。
- 入力電圧は、IEC62368 に準拠したSELV（安全特別低電圧）およびLPS（制限電源）を満たす必要があります。
- ハイタッチ電流！電源に接続する前にアースに接続してください。
- 本装置から発煙、異臭、異音が発生した場合は、一旦電源を切り、電源ケーブルのプラグを抜いてから、サービスセンターにご連絡ください。
- デバイスはUPS と併用し、可能であれば工場推奨のHDD を使用してください。
- 本機のリモコンにはボタン型電池が使用されています。電池を飲み込んだ場合、2時間で重度の内部熱傷を引き起こし、死に至ることがある。
- この装置は、子供がいる可能性のある場所での使用には適していない。
- 注意：バッテリーを正しくないタイプと交換すると、爆発する危険があります。
- 不適切なタイプのバッテリーを不適切に交換すると、予防措置が無効になる可能性があります（リチウムバッテリーの種類によっては、そのような場合など）。
- また、機械的に破碎したり、電池を切ったりすると、爆発する恐れがあります。
- 爆発、可燃性の液体・気体の漏れの原因となるような、電池の周囲の温度が極めて高い場所に放置しないでください。
- バッテリーに極端に低い空気圧をかけないでください。爆発したり、可燃性の液体やガスが漏れたりする恐れがあります。
- 使用済みのバッテリーを廃棄する場合は、指示に従ってください
- ファンの羽根やモーターに身体部品を近づけないでください。保守点検時には、電源を切断してください。
- 車体部分はモーターから離しておいてください。保守点検時には、電源を切断してください。

予防的・警戒的ヒント

装置を接続して操作する前に、以下のヒントをお知らせください:

- 本装置は屋内専用です。通風性が良く、粉塵のない環境で、液体を使用せずに設置してください。
- レコーダーがラックまたはシェルフに正しく固定されていることを確認します。落としたりすると、本機に大きな衝撃や衝撃が加わり、本機内部の高感度電子機器が損傷する恐れがあります。
- 設備は、滴下や飛散にさらされてはならず、液体で満たされた物体は、花瓶などの設備に置かないものとします。
- 照明されたろうそくのような裸の火炎源は、装置上に置かなければならない。
- 通気は、通気口を新聞、テーブルクロス、カーテン等の品目で覆うことによって妨げられるべきではない。開口部は、ベッド、ソファ、ラグ、または他の同様の表面上に装置を置くことによって、決して塞がれてはならない。
- 特定のモデルでは、AC 主電源に接続するための端子の正しい配線を確認してください。
- ある種のモデルでは、必要に応じて、IT配電システムに接続するように装置を設計した。
-  バッテリーホルダ自体を識別し、バッテリーホルダ内のセルの位置を特定します。
- + 直流で使用される、または直流を生成する機器の正端子を識別します。+ 直流で使用される、または直流を生成する機器の負端子を識別します。
- 換気を十分に行うため、装置の周囲には最低200mm (7.87inch) の距離を保ってください。
- 特定のモデルでは、AC 主電源に接続するための端子の正しい配線を確認してください。
- 取扱説明書または取扱説明書に記載されている電源のみをご使用ユーザー。
- 本器のUSBポートは、マウス、キーボード、USBフラッシュドライブ、またはWi-Fi dongleのみに接続するために使用します。
- 取扱説明書または取扱説明書に記載されている電源のみをご使用ユーザー。
- 鋭利な角や角には触れないでください。

目次

第 1 章 起動	1
1.1 デバイスのアクティブ化	1
1.2 ログイン	2
1.2.1 Unlock Patternの設定	2
1.2.2 Unlock Pattern経由でログインする	3
1.2.3 パスワードでログイン	3
第 2 章 ライブビュー	5
2.1 GUI 概要	5
2.2 PTZ 制御	6
2.2.1 PTZパラメータの設定	6
2.2.2 PTZコントロールパネルの紹介	7
2.2.3 プリセットののカスタマイズ	7
2.2.4 パトロールのカスタマイズ	7
2.2.5 パターンのカスタマイズ	8
第 3 章 再生	9
3.1 GUの概要	9
3.2 通常再生	10
3.3 イベント再生	11
3.4 クリップのバックアップ	12
第 4 章 ファイルの検索	13
第 5 章 構成(イージーモード)	14
5.1 System Configuration	14
5.1.1 一般	14
5.1.2 ユーザー	15
5.1.3 意外	16
5.2 ネットワーク構成	17
5.2.1 一般	17

5.2.2	ガーディングビジョン	18
5.2.3	電子メール	19
5.3	カメラ管理	20
5.3.1	ネットワークカメラ	20
5.3.2	OSD設定	23
5.3.3	スマートイベント	24
5.4	記録管理	30
5.4.1	ストレージデバイス	30
5.4.2	録画スケジュールの設定	31
5.4.3	記録パラメータの設定	33
第 6 章	構成(エキスパートモード)	35
6.1	システム設定	35
6.1.1	一般	35
6.1.2	ライブビュー	37
6.1.3	ユーザー	39
6.2	ネットワーク構成	39
6.2.1	TCP/IP	39
6.2.2	DDNS	40
6.2.3	NAT	41
6.2.4	NTP	42
6.2.5	ポート(その他の設定)	43
6.2.6	ISUP	44
6.2.7	ガーディングビジョン	46
6.2.8	電子メール	46
6.3	カメラ管理	46
6.3.1	ネットワークカメラ	46
6.3.2	ディスプレイ設定	51
6.3.3	プライバシーマスク	53
6.4	イベント設定	54
6.4.1	正常なイベント	54

6.4.2	スマートイベント	57
6.4.3	アラームスケジュールの設定	61
6.4.4	アラームリンクアクションの設定	61
6.5	記録管理	64
6.5.1	録画スケジュールの設定	64
6.5.2	記録パラメータの設定	66
6.5.3	ストレージデバイス	67
6.5.4	ストレージモードの設定	68
6.5.5	詳細設定	70
第 7 章	メンテナンス	71
7.1	デフォルトに戻す	71
7.2	検索ログ	71
7.3	システムサービス	71
7.4	アップグレード	73
7.4.1	ローカルアップグレード	73
7.4.2	オンラインアップグレード	73
第 8 章	アラーム	74
8.1	イベント通知の設定	74
8.2	アラームセンターでアラームを表示する	74
第 9 章	Web オペレーション	75
9.1	序文	75
9.2	ログイン	75
9.3	ライブビュー	76
9.4	再生	77
9.5	設定	77
9.6	ログ	78
第 10 章	付録	79
10.1	用語集	79

第1章起動

1.1 デバイスのアクティブ化

初めてアクセスする場合は、管理パスワードを設定してビデオレコーダを起動する必要があります。起動前は操作できません。また、Webブラウザ、SADP、クライアントソフトウェアを使用してビデオレコーダを起動することもできます。

開始前に

デバイスの電源を入れます。

手順

1. 言語を選択します。
2. 適用をクリックします。
3. Password とConfirm Password に同じパスワードを入力します。

警告

強力なパスワードをお勧めします-製品のセキュリティを高めるために、独自に選択した強力なパスワードを作成することを強くお勧めします(大文字、小文字、数字、特殊文字の3 つ以上を含む8 文字以上の使用)。また、高セキュリティシステムでは、特に毎月または毎週パスワードをリセットすると、製品の保護が向上する可能性があるため、パスワードを定期的にはリセットすることをお勧めします。

4. デバイスに接続されているネットワークカメラを起動します。
 - デバイスパスワードを使用して、デバイスパスワードを使用して、非アクティブなネットワークカメラをアクティブにします。
 - カメラ起動パスワードにパスワードを入力して、ネットワークカメラを起動します。
5. オプション: パスワードリセット用の電子メールアドレスを設定します。パスワードを忘れた場合は、電子メールでリセットできます。
6. アクティブ化をクリックします。

*User Name admin

*Password

*Confirm Password

*Camera Activation Password

Use the Device Password

① Reserved Email

図1-1 起動

1.2 ログイン

1.2.1 Unlock Pattern の設定

管理者ユーザーは、ロック解除パターンを使用してログインできます。ロック解除パターンは、デバイスのアクティブ化後に設定できます。

手順

1. マウスを使用して、画面上の9つのドットの中からパターンを描きます。パターンが終了したらマウスを離します。

注

- パターンは、少なくとも4つのドットを有するものとする。
- 各ドットは、1回だけ接続することができる。

2. 再度同じパターンを描いて確認してください。2つのパターンが一致する場合、パターンは首尾よく構成される。

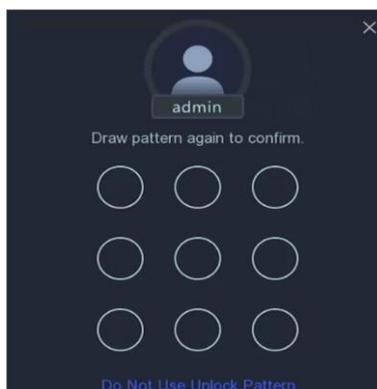


図 1-2 ロック解除パターンの設定

1.2.2 Unlock Pattern 経由でログインする

手順

1. ライブビューインターフェースでマウスを右クリックします。

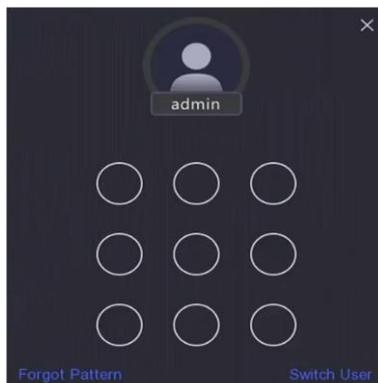


図 1-3 ロック解除パターンの描画

2. あらかじめ定義されたパターンを描いてロックを解除し、メニュー操作に入ります。

注

- パターンを忘れてしまった場合は、「私のパターンを忘れた」または「ユーザーを切り替える」をクリックして、パスワードでログインします。
 - 誤ったパターンを5回以上描画した場合は、自動的に通常ログインモードに切り替わります。
-

1.2.3 パスワードでログイン

ビデオレコーダーがログアウトした場合は、メニューなどの機能进行操作する前にログインする必要があります。

手順

1. ユーザー名を選択します。

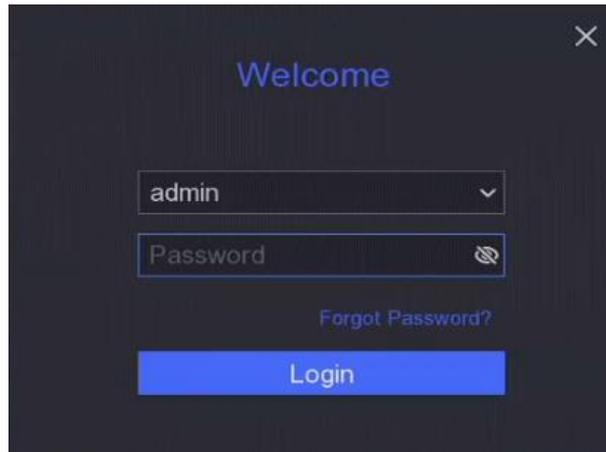


図1-4 ログインインターフェース

2. パスワードを入力します。
3. ログインをクリックします。

 注

- 管理者のパスワードを忘れた場合は、パスワードを忘れたをクリックしてパスワードをリセットできます。
 - パスワードを7回間違えると、現在のユーザーアカウントが60秒間ロックされます。
-

D'SSECURITY

第 2 章 ライブビュー

2.1 GUI の概要

- オートスイッチの起動/停止をクリックします。次の画面に自動的に切り替わります。
- カメラを右クリックするか、またはクリックしてフルスクリーンモードに入ります。
- カメラをダブルクリックすると、シングルスクリーンモードでカメラが表示されます。シングル画面モードを終了するには、もう一度ダブルクリックします。
- カメラのライブビュー画面を、その画面から所望の画面にドラッグして変更します。
- 上下にスクロールすると、前後の画面に切り替わります。
- ショートカットメニューを表示するには、カメラにカーソルを合わせます。



図2-1 ショートカットメニュー

表2-1 ショートカットメニューの説明

ボタン	説明
	最新の5分以内に録画した動画の再生を開始します。
	デジタルズーム。ズームイン時間を調整し、目的の領域を表示できます。
	クリックすると、PTZ 制御モードに入ります。
	ライブビューオーディオのオン/オフを切り替えます。
	ビデオストリームを切り替えます。

- ライブビューインタフェースでは、各カメラについて画面の右上隅にアイコンがあり、カメラの記録およびアラーム状態を示している。

表2-2 ライブビューアイコンの説明

アイコン	説明
	アラーム(通常イベントとスマートイベント)。
	記録。

- マウスを右クリックすると、ショートカットメニューが表示されます。

2.2 PTZ制御

2.2.1 PTZ パラメータの設定

PTZカメラを制御する前に、PTZパラメータを設定する必要があります。

手順

1. ライブビューでカメラをプレビューし、ショートカットメニューをクリックします。 



図 2-2 PTZ 設定

2. クリック 
3. PTZ カメラのパラメータを設定します。

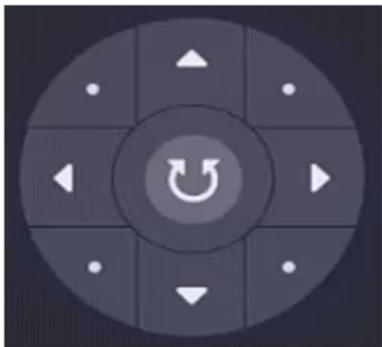
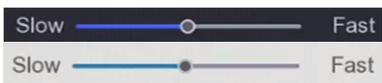
注

すべてのパラメータは、PTZカメラと同じでなければならない。

4. [OK]をクリックします。

2.2.2 PTZコントロールパネルの紹介

表2-3 PTZ パネルの説明

アイコン	説明
	方向ボタンと自動サイクルボタン
	PTZ 移動の速度です。
	ズーム-/+。
	フォーカス-/+。
	アイリス-/+。

2.2.3 プリセットのカスタマイズ

イベントが発生したときにPTZカメラが指し示すプリセット位置を設定します。

手順

1. ライブビューでカメラをプレビューし、ショートカットメニューをクリックします。🔍
2. プリセットリストで目的のプリセットを選択します。
3. 方向ボタンを使用して、カメラを必要な位置にホイールします。希望に応じてズームとフォーカスを調整します。
4. クリック👉

次にどうするか

プリセットリストでプリセットをダブルクリックして呼び出します。

2.2.4 パトロールのカスタマイズ

パトロールは、指定されたシーケンスを有する一連のプリセットからなる経路を指す。これは、いくつかのプリセットを監視するための動的なライブ画像を提供する。

手順

1. ライブビューでカメラをプレビューし、ショートカットメニューをクリックします。🔍

2. [Patrol]をクリックします。
3. 希望するパトロールをクリックします。✎
4. クリック+
5. キーポイント番号、1つのキーポイントの滞在時間、パトロール速度などのキーポイントパラメータを設定します。キーポイントはプリセットに対応しています。プリセット番号は、パトロール中にPTZが追従する順序を決定します。持続時間は、対応するキーポイントに留まる時間スパンを指す。速度は、PTZが1つのキーポイントから次のキーポイントに移動する速度を定義する。

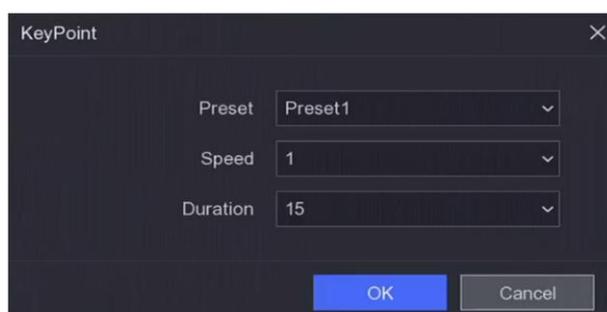


図 2-3 パトロール設定

6. [OK]をクリックします。
7. 保存をクリックします。

次にどうするか

パトロールを選択し、クリックして呼び出します。PTZカメラは、所定のパトロール経路に従って移動する。🔍

2.2.5 パターンのカスタマイズ

パターンは、特定の位置における移動経路及び滞留時間を記録する。パターンを呼び出すと、記録されたパスに従ってPTZカメラが移動します。

手順

1. ライブビューでカメラをプレビューし、ショートカットメニューをクリックします。👤
2. パターンをクリックします。
3. パターンを選択します。
4. クリック👉
5. 方向ボタンを使用して、カメラを必要な位置にホイールします。希望に応じてズームとフォーカスを調整します。
6. クリック前回のPTZカメラ移動経路がパターンとして記録されます。🔍

次にどうしますか?

パターンを選択し、クリックして呼び出します。PTZ カメラは事前定義されたパターンに従って移動します。🔍

第3章再生

3.1 GUI の概要

再生に移動します。



図 3-1 再生

表3-1 再生インターフェースの説明

ボタン	操作	ボタン	操作
	30秒は逆転する。		30 秒前に進みます。
	フルスクリーン。		再生を開始します。
	スピードダウン。		スピードアップ。
	速度。		

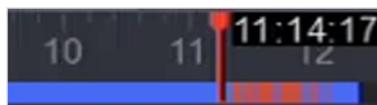


図3-2 タイムライン

- タイムライン上にカーソルを置き、タイムラインをドラッグして特定の時間に配置します。
- 青いバーでマークされた期間は、ビデオを含む。赤いバーは、期間内のビデオがイベントビデオであることを示す。
- ズームアウト/タイムラインにスクロールアップ/ダウンします。

3.2 通常再生

通常の動画を再生します。

手順

1. 再生に移動します。
2. カメラ一覧からカメラを選択します。
3. カレンダーの日付を選んで再生する。

注

カレンダーの日付コーナーにある青い三角形は、利用可能なビデオがあることを示しています。例えば、平均ビデオが利用可能である。ビデオがないことを意味します。10 11

4. 必要に応じて、再生ウィンドウにカーソルを置いてコントロールバーを表示します。



図 3-3 コントロールバー

表3-2 ボタンの説明

ボタン	説明	ボタン	説明
	ウィンドウを分割し、チャンネルをグループ化し、再生します。		再生画像を拡大/縮小します。
	オーディオのオン/オフを切り替えます。		タグを追加します。
	動画をロック/アンロックします。		クリップビデオ。
	人間を含むビデオを表示します。		車両を含む動画を表示します。

3.3 イベント再生

イベント再生モードを選択すると、システムは、動き検出、線交差検出、または侵入検出情報を含むビデオを分析し、マークする。

開始前に

- カメラがDual-VCAを有効にしていることを確認します。ストリームの設定→ビデオ/オーディオ→ディスプレイ情報のカメラウェブブラウザインターフェースから有効にできます。
- ビデオレコーダがVCAデータの保存を有効にしていることを確認します。設定→録画→詳細で有効にできます。

手順

1. 再生に移動します。
2. イベントをクリックします。
3. カメラを選択します。



図3-4 イベント再生

4. 再生ウィンドウにカーソルを置くと、コントロールバーが表示されます。

表3-3 ボタンの説明

ボタン	説明	ボタン	説明
	タグを追加します。		再生画像を拡大/縮小します。
	クリップビデオ。		動画をロック/アンロックします。
	検知領域を設定します。		オーディオのオン/オフを切り替えます。

5. クリックすると、ラインクロス検知、侵入検知、モーション検知の検知領域を設定します。
6. クリックしてビデオを検索します。検出規則要件を満たすビデオは、赤色でマークされる。

7. クリックして、再生方式を設定します。⚙️

通常のビデオを再生しないでください。

有効にすると、スマート情報のないビデオは再生されません。

ノーマルビデオ

通常のビデオ再生速度を設定します。このオプションは、「通常のビデオを再生しない」がオフの場合にのみ有効です。

スマート/カスタムビデオの再生速度

スマートな情報を持つ動画の再生速度を設定します。このオプションは、「通常の動画を再生しない」が有効な場合にのみ有効です。

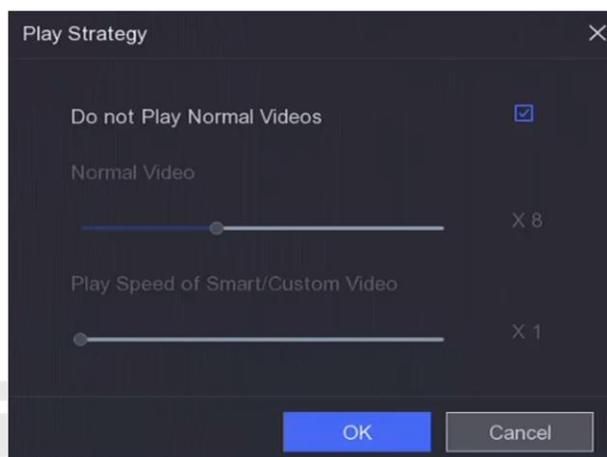


図 3-5 再生戦略

3.4 クリップのバックアップ

再生中にビデオをクリップできます。ビデオクリップはバックアップデバイス(USBフラッシュドライブなど)にエクスポートできます。

開始前に

バックアップデバイスをビデオレコーダーに接続します。

手順

1. 再生を開始します。詳細は「通常再生」を参照してください。
2. クリック🔗
3. 開始時刻と終了時刻を設定します。また、タイムバー上のカーソルを調整して、期間を設定することもできます。
4. 保存をクリックします。
5. バックアップデバイスとフォルダを選択します。
6. 「保存(Save)」をクリックして、クリップをバックアップデバイスに書き出します。

第4章ファイルの検索

手順

1. [検索]に移動します。

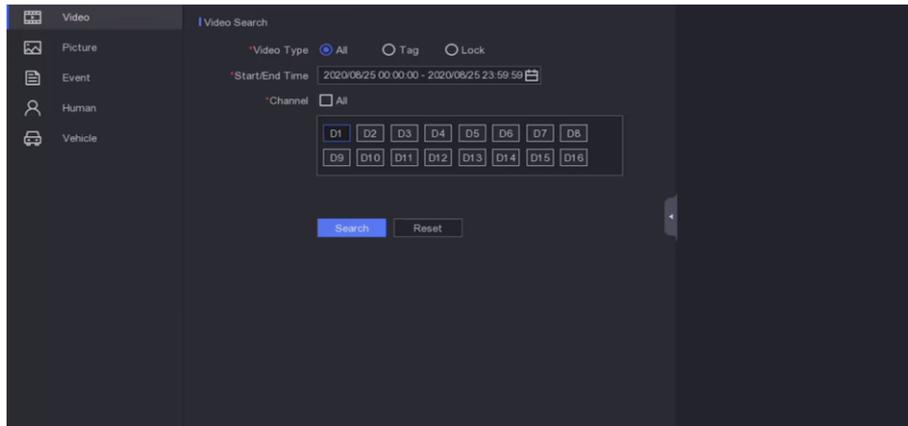


図 4-1 検索

2. 検索タイプ(ビデオ、写真、イベントなど)を選択します。
3. 検索条件を設定します。
4. 検索をクリックします。
 - クリックしてビデオを再生します。🎞
 - クリックしてファイルをロックします。ロックしたファイルは上書きされません。🔒
 - ファイルを選択し、エクスポートをクリックしてファイルをバックアップデバイスにエクスポートします。

第 5 章 構成(イージーモード)

イージーモードには基本的な設定が含まれます。Configuration に移動し、Easy Mode をクリックします。

5.1 System Configuration

5.1.1 一般

出力解像度、システム時間などを設定できます。

手順

1. 「構成→制度→総括」をご覧ください。

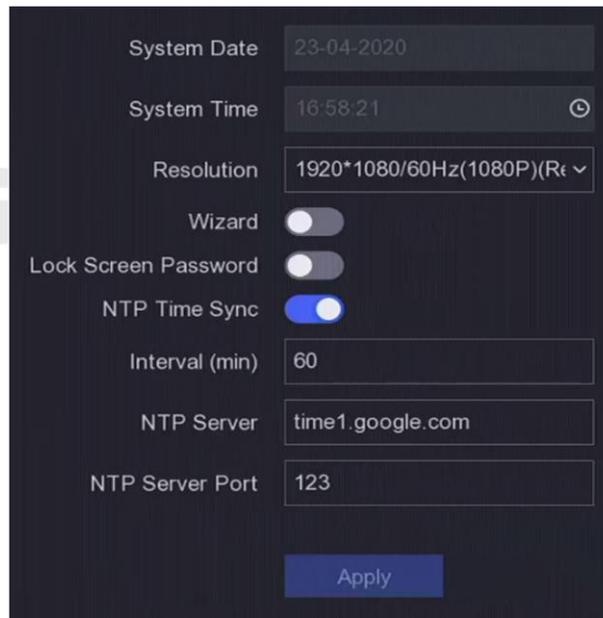


図 5-1 一般設定

2. 欲求としてパラメータを設定します。

ウィザード

デバイスが起動すると、ウィザードがポップアップ表示されます。

ロック画面のパスワード

画面がロックされている場合は、パスワードを入力する必要があります。

NTP 時間同期

NTP (Network Time Protocol) は、時刻同期のためのネットワークプロトコルです。デバイス

はNTP (ネットワークタイムプロトコル)サーバに接続して時刻を同期できます。

Interval (min) NTP サーバとの2 つの時間同期間の時間間隔。

NTPサーバ

NTP サーバのIP アドレス。

- 適用をクリックします。

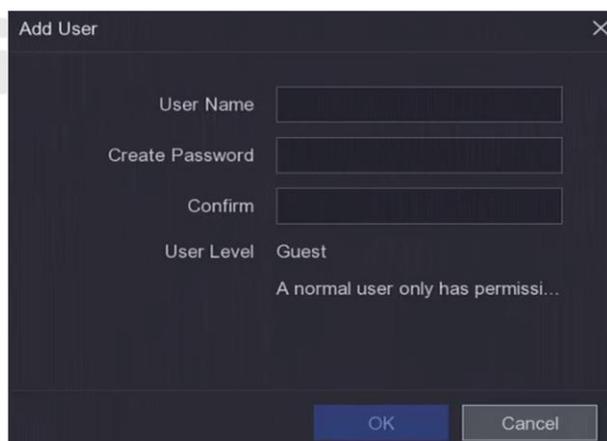
5.1.2 ユーザー

ユーザーの追加

デフォルトアカウント: Administrator があります。管理者ユーザー名はadmin です。管理者には、ユーザーを追加、削除、および編集する権限があります。ゲストユーザーには、ライブビュー、再生、およびログ検索の権限のみがあります。

手順

- 設定→システムユーザーズに移動します。
- Add(追加)をクリックし、管理者パスワードを確認します。



The screenshot shows a dark-themed dialog box titled "Add User". It has three input fields: "User Name", "Create Password", and "Confirm". Below these fields, the "User Level" is set to "Guest", and there is a small text note: "A normal user only has permissi...". At the bottom right, there are two buttons: "OK" and "Cancel".

図5-2 ユーザーの追加

- ユーザー名を入力します。
- Password とConfirm に同じパスワードを入力します。

警告

製品のセキュリティを高めるために、独自に選択した強力なパスワードを作成することを強くお勧めします(大文字、小文字、数字、特殊文字の3 つ以上を含む8 文字以上の使用)。また、高セキュリティシステムでは、特に毎月または毎週パスワードをリセットすることで、製品の保護を向上させることができるため、パスワードを定期的リセットすることをお勧めします。

5. [OK]をクリックします。
- / をクリックして、ユーザーを編集/ 削除します。  

パスワードの設定電子メールのリセット

ログインパターンとパスワードを忘れた場合、デバイスはパスワードをリセットするための確認コードを含む電子メールを電子メールで送信します。

手順

1. 設定→システムユーザズに移動します。
2. 電子メールのパスワードリセットをクリックします。
3. 認証用の管理者パスワードを入力します。
4. メールアドレスを入力します。
5. [OK]をクリックします。

パスワードのリセット

ログインパターンとパスワードを忘れたときにパスワードをリセットできます。

手順

1. パスワードログインインターフェースで「パスワードを忘れた」をクリックします。
2. ウィザードに従ってパスワードをリセットします。

5.1.3 意外

アラームセンターで意外イベントヒントを受信し、意外リンクアクションを設定できます。

手順

1. コンフィギュレーション→の→システム除外に移動します。
2. オプション: イベントヒントを設定します。設定されたイベントが発生すると、アラーム・センターでヒントを受信されます。
 - 1) イベントヒントを有効にします。
 - 2) ローカルメニューの右上隅をクリックしてアラームセンターに入ります。 
 - 3) イベントタイプを選択します。
 - 4) 「設定」をクリックして、ヒントするイベントを選択します。
3. 意外タイプの設定
4. 意外リンク・アクションの場合は、「通常リンク」および「トリガー・アラーム出力」タイプを選択します。

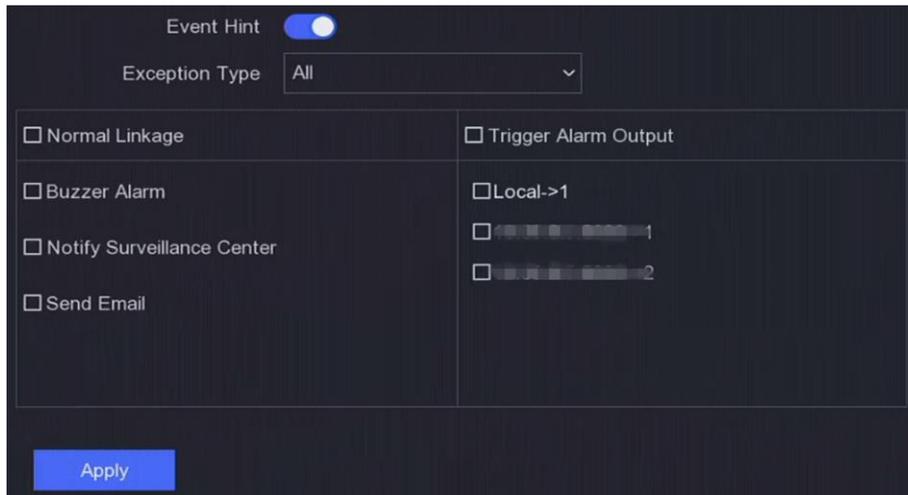


図5-3 意外

5. 適用をクリックします。

5.2 ネットワーク構成

5.2.1 一般

ネットワーク経由でデバイス进行操作する前に、ネットワーク設定を適切に構成する必要があります。

手順

1. 「設定→ネットワーク→全般」に進みます。

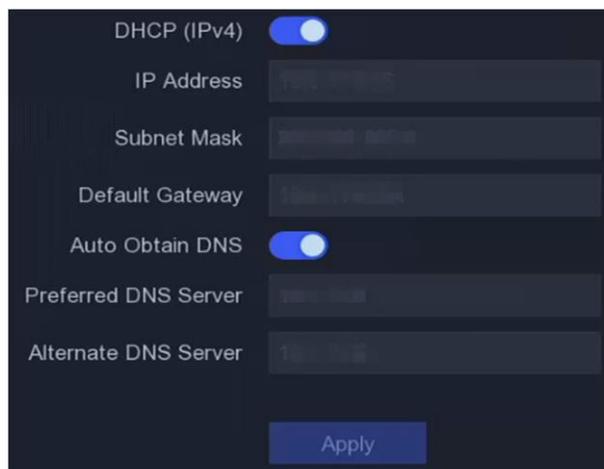


図5-4 ネットワーク

2. ネットワークパラメータの設定

DHCP

DHCP サーバが使用可能な場合は、DHCP を有効にして、そのサーバから試験 アドレスやその他のネットワーク設定を自動的に取得できます。

DNSの自動取得

DHCP が有効な場合。「自動取得DNS」を有効にすると、「優先DNS サーバ」と「代替DNS サーバ」を自動的に取得できます。

3. 適用をクリックします。

5.2.2 ガーディングビジョン

Guarding Vision は、接続されたデバイスにアクセスして管理するための携帯電話アプリケーションとプラットフォームサービスを提供します。これにより、監視システムへの便利なりモートアクセスが可能になります。

手順

1. 「設定→ネットワーク→防護ビジョン」に進みます。
2. 有効をオンにします。サービス条件がポップアップします。
 - 1) QRコードをスキャンして、サービス利用規約とプライバシーに関する声明を読みます。
 - 2) 私は、サービス条件とプライバシーステートメントを読んで、それに同意していることを確認します。サービスの条件やプライバシーに関する記述に同意している場合。。
 - 3) [OK]をクリックします。
3. 確認コードを設定するときにクリックします。🔗
4. オプション: Platform Time Sync を有効にすると、デバイスはNTP サーバではなくプラットフォームサーバと時刻を同期します。
5. オプション: ストリーム暗号化をチェックします。この機能を有効にした後、リモートアクセスとライブビューで確認コードを入力する必要があります。
6. オプション: サーバーIP を編集します。
7. Guarding Vision アカウントでデバイスをバインドします。
 - 1) スマートフォンでQRコードを読み取り、Guarding Visionアプリをダウンロードします。
 - 2) Guarding Visionを開き、QRコードをスキャンしてビデオレコーダーを追加します。ビデオレコーダーをGuarding Visionに追加する方法や操作方法については、「Guarding Vision Mobile Clientユーザーマニュアル」を参照してください。
 - デバイスがすでにアカウントにバインドされている場合は、Unbindをクリックして、現在のアカウントとのバインドを解除することができます。
左上隅のQR コードを使用して、Guarding Vision をダウンロードし、デバイスをバインドすることもできます。📄
8. 適用をクリックします。

結果

- デバイスがGuarding Vision プラットフォームに接続されている場合、接続ステータスはオンラインになります。
- お使いのデバイスがGuarding Visionアカウントにバインドされている場合、Bind StatusはYesに

なります。

次にどうしますか？

ビデオレコーダーには、Guarding Vision 経由でアクセスできます。

5.2.3 電子メール

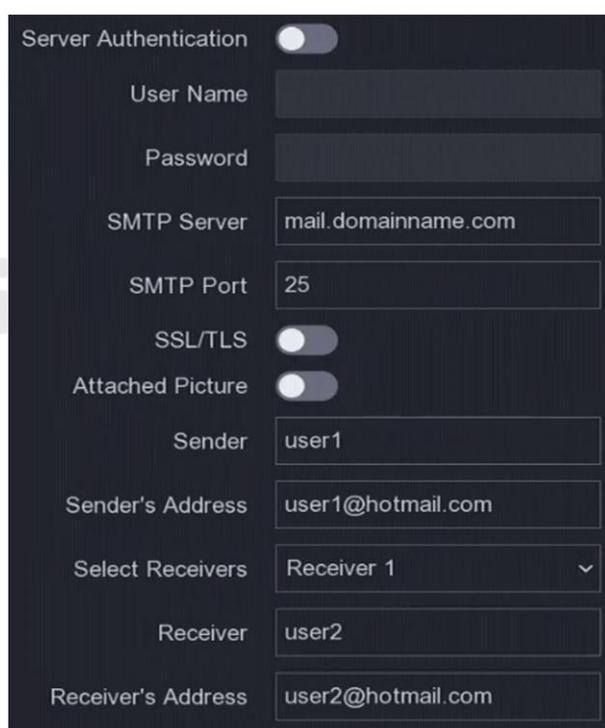
イベント通知を受信する電子メールアカウントを設定します。

開始する前に

- 電子メールでSMTP サービスが使用可能であることを確認します。
- ネットワークパラメータを設定します。詳細は「一般」を参照してください。

手順

1. 「設定→のネットワーク→電子メール」に移動します。



Server Authentication	<input checked="" type="checkbox"/>
User Name	
Password	
SMTP Server	mail.domainname.com
SMTP Port	25
SSL/TLS	<input checked="" type="checkbox"/>
Attached Picture	<input checked="" type="checkbox"/>
Sender	user1
Sender's Address	user1@hotmail.com
Select Receivers	Receiver 1
Receiver	user2
Receiver's Address	user2@hotmail.com

図5-5 電子メール

2. 電子メールパラメータを設定する

サーバー認証

チェックすると、サーバ認証機能が有効になります。

ユーザー名

SMTP サーバー認証の電子メール送信者のユーザーアカウント。

パスワード

SMTP サーバー認証の電子メール送信者のパスワード。

SSL/TLS

(オプション) SMTP サーバーで必要な場合は、SSL/TLS を有効にします。

添付画像

(オプション) イベントがトリガされると、画像がメール添付として送信されます。

送信者

送信者名。

送信者の住所

送信者のメールアドレス。

受信者の選択

受信者を選択します。受信機は3台までご利用いただけます。

レシーバ

受信者名。

受信者の住所

受信者のメールアドレス。



ネットワークカメラの場合、イベント画像は、電子メール添付ファイルとして直接送信される。1つのネットワークカメラは1つの画像のみを送信する。

- 必要に応じて、「テスト」を選択してテストメールを送信します。
- 適用をクリックします。

5.3 カメラ管理

5.3.1 ネットワークカメラ

Device Password によるネットワークカメラの追加

ビデオレコーダーと同じパスワードのネットワークカメラを追加します。

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメント上にあることを確認します。
- ネットワーク接続が有効で正しいことを確認します。詳細は「一般」を参照してください。
- ネットワークカメラのパスワードがビデオレコーダと同じであることを確認してください。

手順

1. 「設定→カメラ→カメラ」に移動します。ビデオレコーダーと同じネットワークセグメント上のオンラインカメラは、オンラインデバイスリストに表示されます。

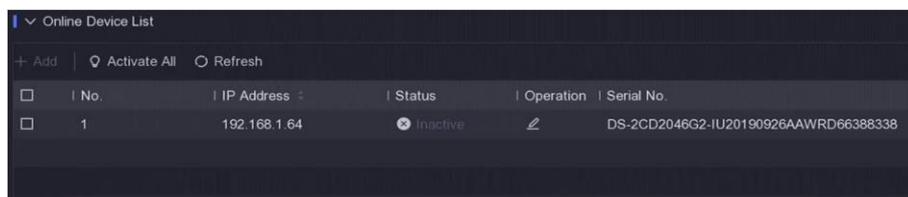


図 5-6 IP カメラ管理インターフェース

2. 希望するネットワークカメラを選択します。
3. クリックしてカメラを追加します。+

注

カメラがアクティブでない場合、デバイスは、デバイスのアクティブ化中に設定したパスワードで自動的にアクティブ化されます。

ネットワークカメラを手動で追加する

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメント上にあることを確認します。
- ネットワーク接続が有効で正しいことを確認します。
- ネットワークカメラが有効になっていることを確認します。

手順

1. 「設定→カメラ→カメラ」に移動します。
2. Added Device List をクリックします。+
3. IPアドレス、プロトコル、管理ポートなどのネットワークカメラパラメータを設定します。カメラアクティベーションパスワードを使用して、デバイスパスワードを使用してネットワークカメラを追加できます。
4. オプション: 追加をクリックして、別のネットワークカメラを追加します。
5. [OK]をクリックします。

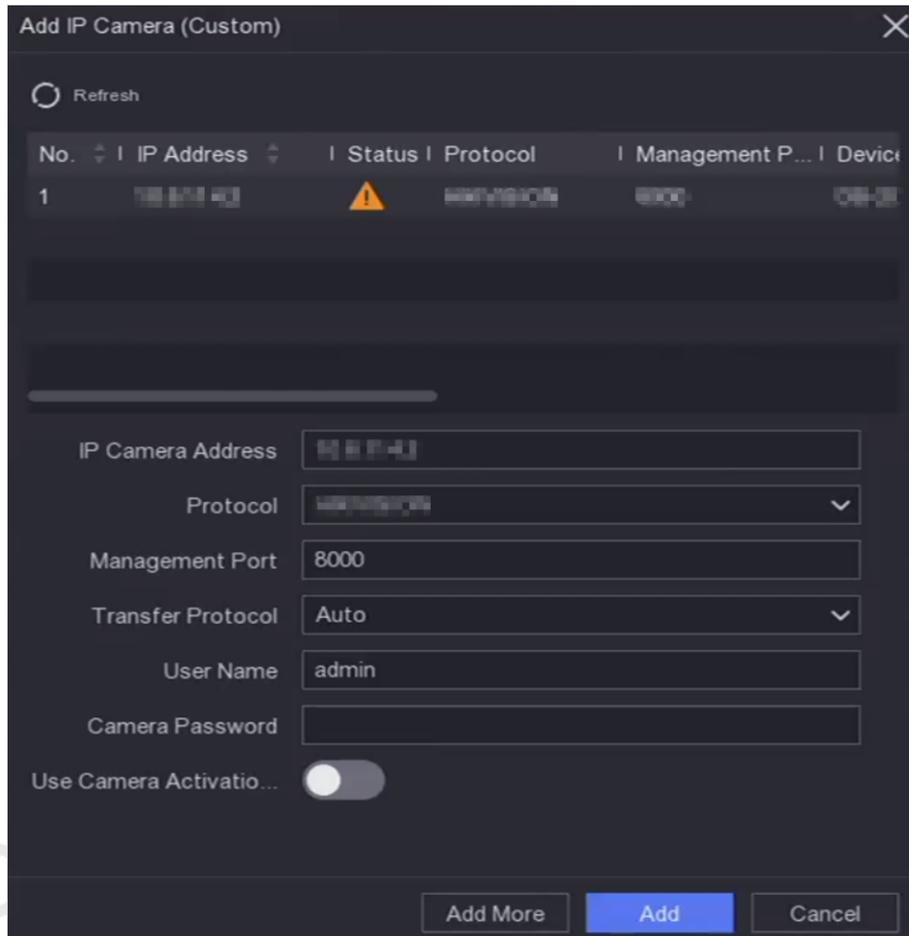


図 5-7 ネットワークカメラの追加

接続したネットワークカメラの編集

追加したネットワークカメラのIPアドレス、プロトコルなどのパラメータを編集できます。

手順

1. 「設定→カメラ→カメラ」に移動します。
2. 選択したカメラをクリックして編集します。✎

チャンネルポート

接続機器が複数チャンネルのエンコード機器の場合、チャンネルポート番号を選択して接続チャンネルを選択できます。

3. [OK]をクリックします。

ネットワークカメラのアップグレード

ネットワークカメラは、装置を介して遠隔でアップグレードすることができる。

開始する前に

- USB フラッシュドライブがデバイスに挿入されており、ネットワークカメラのアップグレードファームウェアが含まれていることを確認します。
- ネットワークカメラがビデオレコーダと同じネットワークセグメント上にあることを確認します。
- ネットワーク接続が有効で正しいことを確認します。

手順

1. 「設定→カメラ→カメラ」に移動します。
2. クリック 
3. はいをクリックして確認します。
4. ストレージデバイスからカメラアップグレードファームウェアを選択します。
5. アップグレードをクリックしてアップグレードを開始します。アップグレードが完了すると、カメラが自動的に再起動します。

Advanced Camera パラメータs の設定

カメラのIPアドレス、カメラのパスワードなど、高度なカメラパラメータを設定できます。

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメント上にあることを確認します。
- ネットワーク接続が有効で正しいことを確認します。

手順

1. 「設定→カメラ→カメラ」に移動します。
2. クリック 
3. 試験アドレス、カメラパスワードなどのカメラパラメータを設定します。
4. 適用をクリックします。

5.3.2 OSD 設定

日付形式、カメラ名など、カメラのOSD (オンスクリーンディスプレイ)設定を設定します。

手順

1. 「設定→カメラ→」に移動します。
2. カメラを選択します。

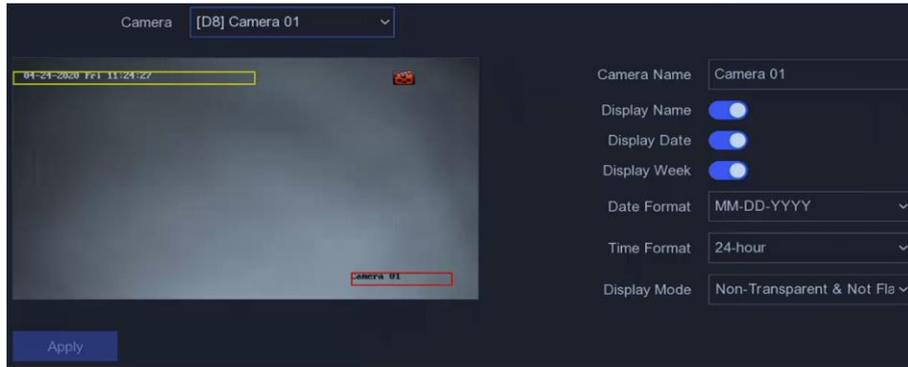


図5-8 OSD

3. 希望に応じてパラメータを設定します。
4. プレビューウィンドウ上のテキストフレームをドラッグして、OSD 位置を調整します。
5. 適用をクリックします。

5.3.3 スマートイベント

動き検出

動き検出は、ビデオレコーダが監視領域内の移動物体を検出し、警報をトリガすることを可能にする。

手順

1. 「設定→カメラ→事象→動き検知」に進みます。

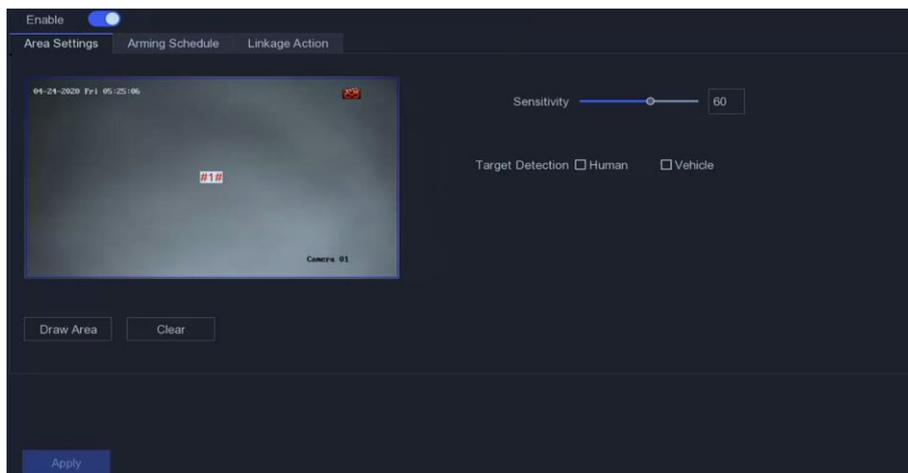


図5-9 動き検出

2. カメラを選択します。
3. 有効をオンにします。
4. 動き検出エリアを設定します。
 - [領域の描画]または[クリア]をクリックして、領域を描画またはクリアします。最初の領域は、

デフォルトでフルスクリーンとして設定されています。

- 「全画面」をクリックして、動き検出エリアを全画面に設定します。プレビューウィンドウ上でドラッグすると、モーション検出エリアを描画できます。
- 5. 感度を調整します。感度を使用すると、動きがアラームをトリガーする可能性を校正できます。より高い値は、動き検出をより容易にトリガする結果となる。
- 6. オプション:人間または車両として目標検出を設定し、人体または車両によってトリガされないアラームを廃棄する。特定のカメラモデルのみがこの機能をサポートします。
- 7. アーミングスケジュールを設定します。詳細については、「Configure アラームスケジュール」を参照してください。
- 8. リンクアクションを設定します。詳細については、「アラームリンクアクションの設定」を参照してください。
- 9. 適用をクリックします。

ラインクロス検出

交差線検出は、設定された仮想線を横切る人、車両、および物体を検出する。検出方向は、左から右へ、または右から左への双方向として設定することができる。

手順

1. 構成→カメラ→事象→線交差に進む。

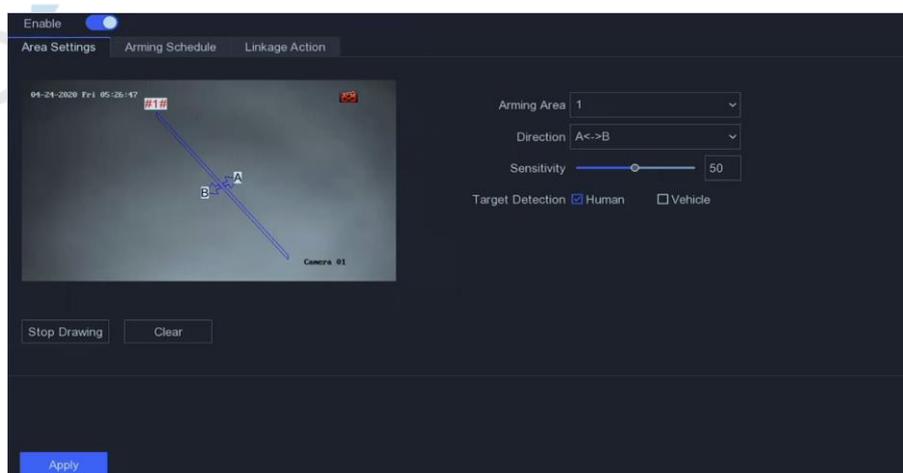


図5-10 検出

2. カメラを選択します。
3. 有効をオンにします。
4. 線交差検出ルールと検出エリアを設定します。
 - 1) Arming Area を設定します。最大4つのアーミングエリアを選択できます。
 - 2) 方向をA->B、A->B、またはA<-B として選択します。

A<->B

B側の矢印のみが示されている。構成された線を両方向に横切る物体を検出し、警報をトリガすることができる。

A→B

A側からB側に構成された線を横切る物体のみを検出することができる。

B→A

B側からA側に構成されたラインを横切る物体のみを検出することができる。

- 3) 感度を設定します。値が高いほど、検出アラームがトリガーされやすくなります。
- 4) オプション:人間または車両として目標検出を設定し、人体または車両によって発生しないアラームを廃棄します。
- 5) Draw Area をクリックし、プレビューウィンドウに2つのポイントを設定して仮想線を描画します。
5. アーミングスケジュールを設定します。詳細については、「Configure アラームスケジュール」を参照してください。
6. リンクアクションを設定します。詳細については、「アラームリンクアクションの設定」を参照してください。
7. 適用をクリックします。

侵入検知

侵入検出は、予め定義された仮想領域に入り、そこを飛び越える人、車両、または物体を検出する。

手順

1. 「設定→カメラ→事象→侵入」に進みます。

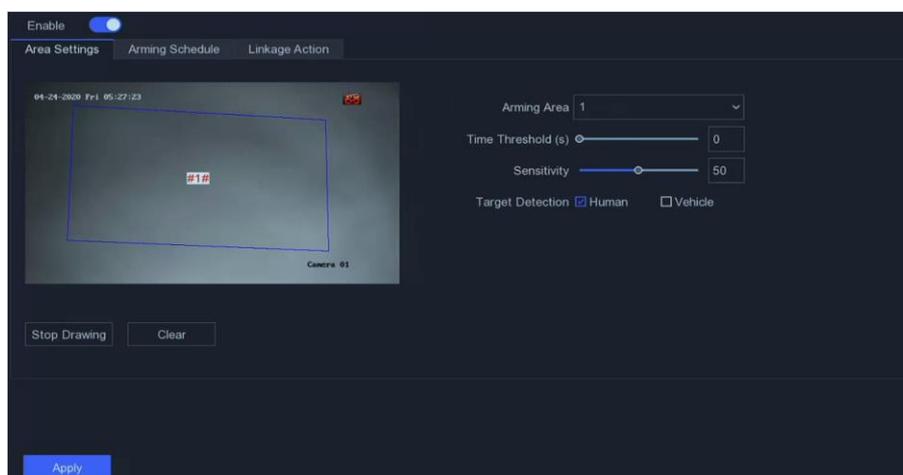


図5-11 侵入検出

2. カメラを選択します。
3. 有効をオンにします。
4. 検出ルールと検出エリアを設定します。
 - 1) Arming Area を設定します。最大4つのアーミングエリアを選択できます。
 - 2) 感度を設定します。アラームを起動できるオブジェクトのサイズ。値が高いほど、検出アラームをトリガーしやすくなります。範囲は[1-100]です。

- 3) オプション:人体または車両によってトリガされないアラームを廃棄するために、目標検出を人間または車両として設定します。
- 4) 「Draw Area」をクリックして、四角形の検出領域を描画します。
5. アーミングスケジュールを設定します。詳細については、「Configure アラームスケジュール」を参照してください。
6. リンクアクションを設定します。詳細については、「アラームリンクアクションの設定」を参照してください。
7. 適用をクリックします。

領域入口検出

領域入口検出は、所定の仮想領域に入る物体を検出する。

手順

1. 構成→カメラ→事象→領域入口に進む。

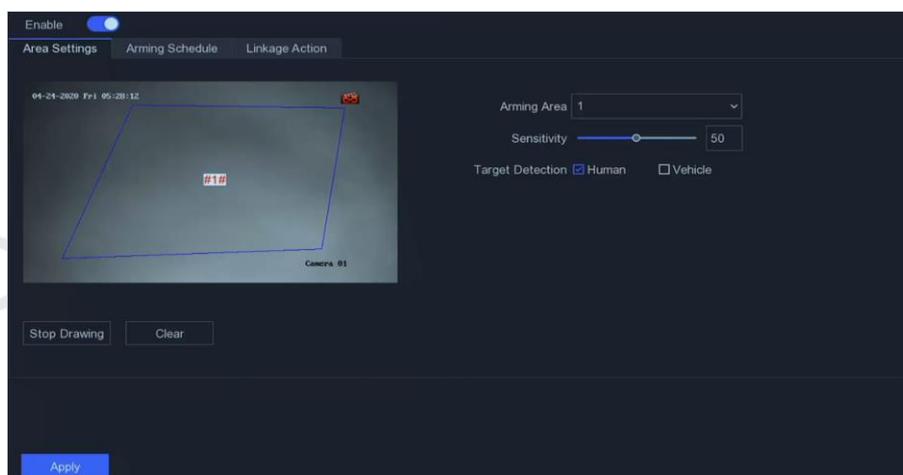


図5-12 領域入口検出

2. カメラを選択します。
3. 有効をオンにします。
4. 検出ルールと検出エリアを設定します。
 - 1) Arming Area を設定します。最大4つのアーミングエリアを選択できます。
 - 2) 感度を設定します。値が高いほど、検出アラームをトリガーしやすくなります。範囲は[1-100]です。
 - 3) オプション:人体または車両によってトリガされないアラームを廃棄するために、目標検出を人間または車両として設定します。
 - 4) 「Draw Area」をクリックして、四角形の検出領域を描画します。
5. アーミングスケジュールを設定します。詳細については、「Configure アラームスケジュール」を参照してください。
6. リンクアクションを設定します。詳細については、「アラームリンクアクションの設定」を参照してください。

7. 適用をクリックします。

領域終了検出

領域出口検出は、事前定義された仮想領域から出るオブジェクトを検出します。

手順

1. 「設定→カメラ→事象→リージョン終了」に進みます。

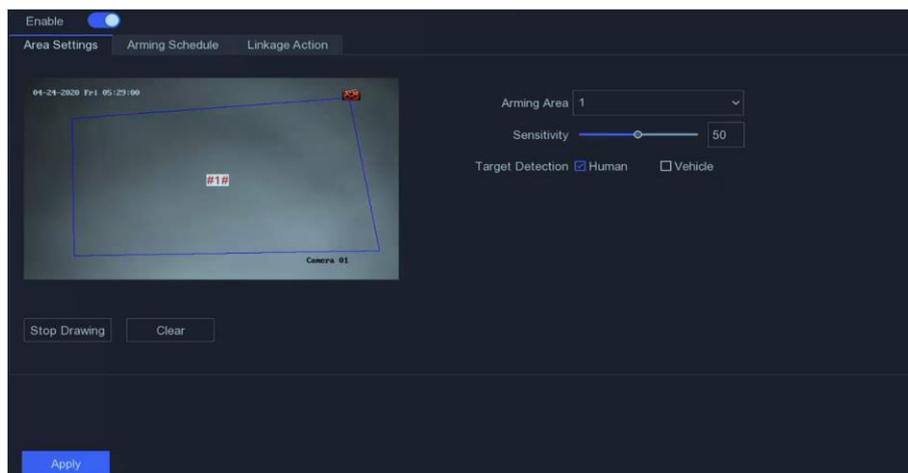


図5-13 リージョン終了検出

2. カメラを選択します。
3. 有効をオンにします。
4. 検出ルールと検出エリアを設定します。
 - 1) Arming Area を設定します。最大4つのアーミングエリアを選択できます。
 - 2) 感度を設定します。値が高いほど、検出アラームをトリガーしやすくなります。範囲は[1-100]です。
 - 3) オプション:人体または車両によってトリガされないアラームを廃棄するために、目標検出を人間または車両として設定します。
 - 4) 「Draw Area」をクリックして、四角形の検出領域を描画します。
5. アーミングスケジュールを設定します。詳細については、「Configure アラームスケジュール」を参照してください。
6. リンクアクションを設定します。詳細については、「アラームリンクアクションの設定」を参照してください。
7. 適用をクリックします。

アラームスケジュール の設定

手順

1. アラームスケジュールを選択します。
2. 曜日を1日選択し、時間区分を設定します。毎日8時間まで設定できます。

注

期間は、繰り返されたり、重複したりしてはならない。

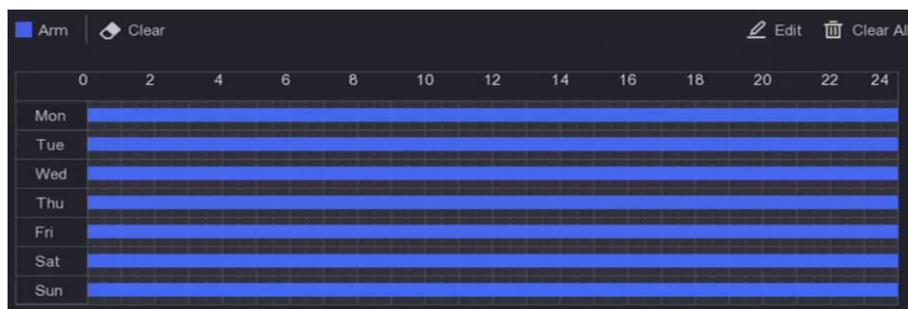


図 5-14 準備スケジュールの設定

3. 適用をクリックします。

アラームリンクアクションの設定

アラームまたは意外が発生すると、アラームリンクアクションが起動されます。

手順

1. リンクアクションをクリックします。

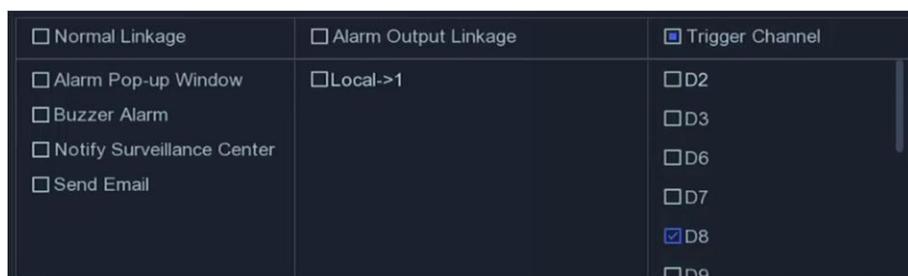


図5-15 リンクアクション

2. 通常の連携動作、アラーム出力連携動作、トリガチャンネルなどを設定します。

アラームのポップアップ画面

ローカルモニタは、アラームがトリガされると、アラームチャンネル画像をポップアップする。トリガ・チャンネルでアラーム・チャンネルを選択する必要があります。

ブザーアラーム

アラームが発生すると、ブザー音が鳴ります。

通知サーベイランスセンター

デバイスは、アラームがトリガされると、意外信号またはアラーム信号をリモートクライアント

ソフトウェアに送信する。

電子メールの送信

アラームがトリガされると、アラーム情報を含む電子メールが送信されます。

PTZリンク

スマート場合が発生すると、PTZ アクション(コールプリセット/パトロール/パターンなど)がトリガされます。

Audio and Light Alarm Linkage

一部のネットワークカメラでは、アラーム連動動作をオーディオアラームまたはライトアラームに設定できます。

注

- お使いのカメラがオーディオと可視光のアラーム連動に対応していることを確認してください。
 - オーディオ出力と音量が正しく設定されていることを確認します。
 - オーディオとライトのパラメータを設定する必要がある場合は、Webブラウザを介してネットワークカメラにログインして設定してください。
-

3. 適用をクリックします。

5.4 記録管理

5.4.1 ストレージデバイス

HDD初期化

動画や情報を保存するには、新しく取り付けられたハードディスクドライブ(HDD)を初期化する必要があります。

開始前に

ビデオレコーダーに少なくとも1台のHDDを取り付けます。詳細な手順については、『クイックスタートガイド』を参照してください。

手順

1. 設定→レコードの→保存に移動します。
2. HDDを選択します。
3. Init をクリックします。

修復データベース

データベースにエラーがあるHDDを修復します。専門的な技術サポートを受けて操作してく

ださい。

ネットワークディスクの追加

割り当てられたNASまたはIP SANディスクをビデオレコーダに追加し、ネットワークHDDとして使用することができます。最大8つのネットワークディスクを追加できます。

手順

1. 設定→レコードの→保存に移動します。
2. 追加をクリックします。
3. NetHDDを選択します。
4. Type をNAS またはIP SAN に設定します。
5. NetHDD のIP アドレスを入力します。
6. クリックして、使用可能なディスクを検索します。🔍

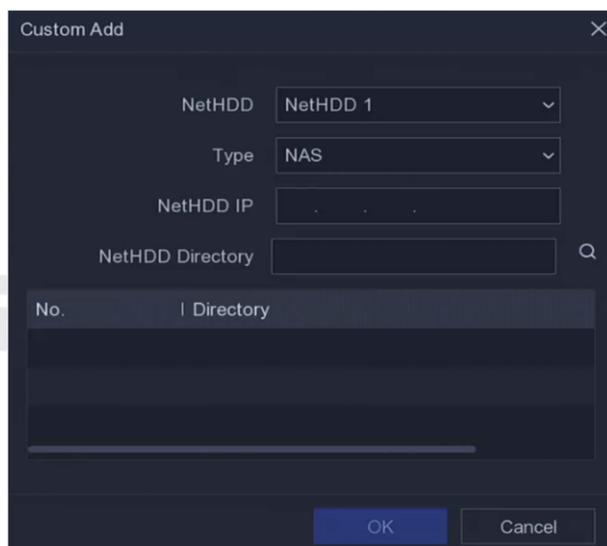


図5-16 NetHDD の追加

7. リストからNASディスクを選択するか、NetHDDディレクトリに手でディレクトリを入力します。
8. [OK]をクリックします。追加したNetHDDがストレージデバイスリストに表示されます。

5.4.2 録画スケジュールの設定

ビデオレコーダーは、設定したスケジュールに従って自動的に録画を開始/停止します。

連続録音の設定

手順

1. 設定→レコード→パラメータに移動します。

2. カメラのメインストリーム/サブストリームパラメータを設定します。詳細については、Configure Recording パラメータ を参照してください。
3. 「設定→レコードの→予定」に移動します。
4. 「Continuous」として記録タイプを選択します。詳細はスケジュールの編集をご参照ください。

イベント記録の設定

動き検出、線交差検出、侵入検出をトリガーに録音を設定できます。

手順

1. 設定→イベント スマートイベントに移動します。
2. イベント検出を設定し、イベント発生時に記録をトリガするチャンネルを選択します。詳細については、「スマート事象」を参照してください。
3. 設定→レコード→パラメータに移動します。
4. カメラのメインストリーム/サブストリームパラメータを設定します。詳細については、Configure Recording パラメータ を参照してください。
5. 「設定→レコードの→予定」に移動します。
6. 録音タイプをイベントとして選択します。詳細はスケジュールの編集をご参照ください。

スケジュールの編集

手順

1. 「設定→レコードの→予定」に移動します。

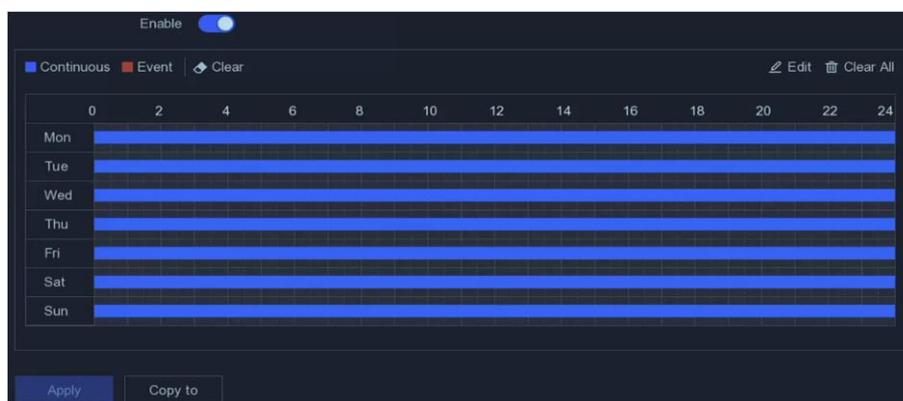


図5-17 記録スケジュール

連続

連続記録。

イベント

録音はイベントによってトリガーされます。

2. Camera No.でカメラを選択します。
3. 有効をオンにします。

4. 録画スケジュールを設定します。

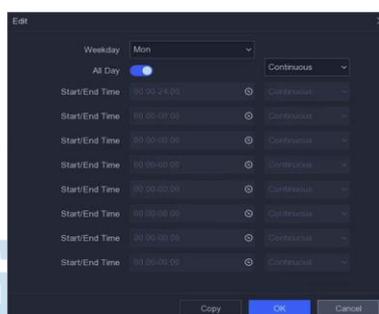
スケジュールの編集

1. 編集をクリックします。
2. 曜日に設定する曜日を選択します。
3. 終日録画スケジュールを設定するには、「終日」をオンにしてスケジュールタイプを選択します。
4. その他のスケジュールを設定するには、「すべての日」のチェックを外し、「開始/終了時刻」とスケジュールタイプを設定します。



1 日に最大8つの期間を設定できます。そして、期間を重複させることはできない。

5. 「OK」をクリックして設定を保存し、上位のメニューに戻ります。



スケジュールの編集

1. クリックして、スケジュールタイプをContinuousまたはイベントとして選択します。
2. 表で、目的のピリオドにマウスをドラッグして、色付きのバーを描きます。

5. 適用をクリックします。

5.4.3 記録パラメータの設定

手順

1. 設定→レコード→パラメータに移動します。
2. 記録パラメータを設定します。

メインストリーム

メインストリームとは、ハードディスクドライブに記録されたデータに影響を及ぼすプライマリストリームのことで、ビデオの品質と画像を決めます。サブストリームと比較すると、メインストリームは、より高い解像度でより高品質のビデオを提供できます。

サブストリーム

サブストリームは、メインストリームと並行して実行される2番目のコーデックです。これにより、ダイレクトレコーディングの品質を犠牲することなく、送信インターネット帯域幅を削減することができます。サブストリームは、スマートフォンアプリケーションでライブビデオを見るために使用されることが多い。インターネットのスピードが制限された場合、この設定が有利です。

フレームレート

フレームレートは、秒単位でいくつのフレームが捕捉されるかのこと。高いフレームレートは、ビデオストリームに動きがあるときに、全体を通して画質を維持するのに有利です。

解像度

画像解像度は、デジタル画像がどれだけのディテールが保持できるかの尺度であり、解像度が大きいほど、ディテールのレベルが大きくなる。解像度は、ピクセル列の数(幅)×ピクセル行の数(高さ)、例えば、1024×768です。

ビットレート

ビットレート(kbit/sまたはMbit/s)は、しばしばスピードと呼ばれるが、実際には、距離/時間単位ではなく、ビット/時間単位の数を定義します。

注

解像度、フレームレート、ビットレートを高くすると、ビデオ品質が向上しますが、より多くのインターネット帯域幅が必要になり、ハードディスクドライブのストレージ容量が増えます。

3. 「適用」をクリックします。

第 6 章構成(エキスパートモード)

「設定」に移動し、左下にある「エキスパートモード」をクリックします。

6.1 システム設定

6.1.1 一般

基本設定

言語、システム時間、出力解像度、マウスポインタスピード、ロック画面パスワードなどを設定できます。

設定→システムの基本設定に進み、必要に応じてパラメータを設定し、「適用」を選択します。

言語

デフォルトの言語は英語です。

VGA/HDMI 解像度

出力解像度を選択します。VGA/HDMI ディスプレイの解像度と同じである必要があります。

ロック画面のパスワード

画面がロックされている場合は、認証用のパスワードを入力する必要があります。

マウスポインタ速度

マウスポインタのスピードを設定します。4 段階の設定が可能です。

ウィザード

デバイスが起動すると、ウィザードがポップアップ表示されます。

拡張SVC モード

スケーラブルビデオコーディング(SVC)は、H.264/AVCおよびH.265の拡張である。ネットワーク帯域幅またはシステムのデコード機能が不十分な場合、拡張SVC モードは元のビデオから自動的にフレームを抽出し、ビデオを表示できるようにします。

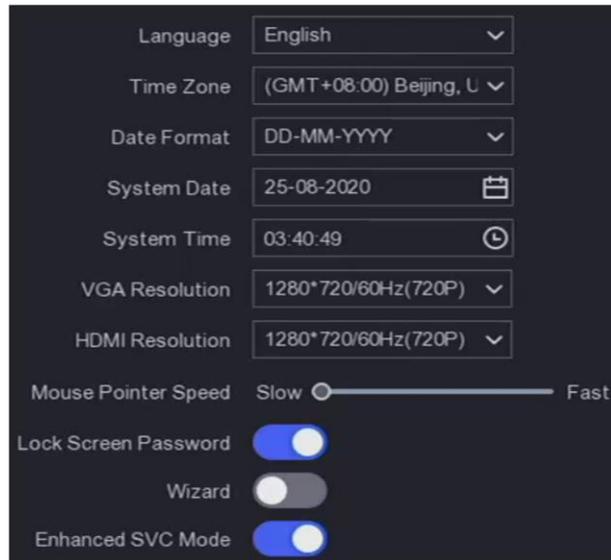


図6-1 基本設定

DST 設定

DST (Daylight Saving Time)とは、クロックを1周期先に移動させた年の期間のことです。世界中のいくつかの地域では、天候が最も暖かい数ヶ月間の夕方により多くの日照時間を作り出す効果を有する。

設定→全般→サマータイム設定に進み、必要に応じてパラメータを設定し、適用を選択します。

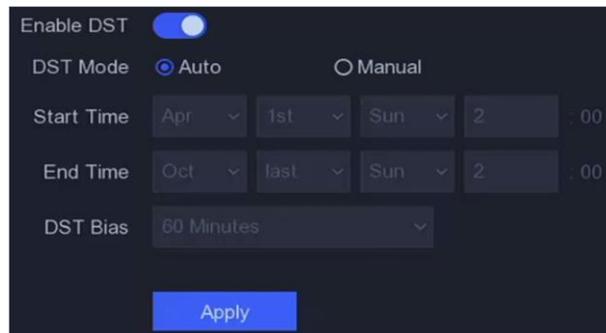


図 6-2 DST 設定

他の設定

デバイス名、ロック画面時間、出力モードなどが設定できます。

ユーティリティの「詳細設定」の設定に進み、必要に応じてパラメータを設定して、「適用」を選択します。

デバイス名

ビデオレコーダー名を編集します。

装置番号

リモコンやネットワークキーボードなどとの接続には番号が必要です。ビデオレコーダーのシリアル番号を編集します。デバイス番号は1～255の範囲で設定でき、初期値は255です。

ロック画面

ロック画面のタイムアウト時間を設定します。

メニュー出力モード

出力を選択してローカルメニューを表示します。

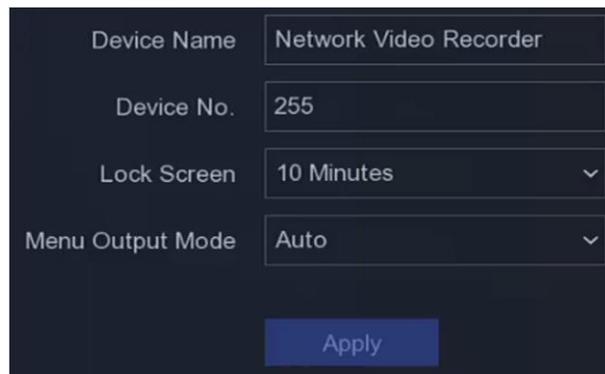


図 6-3 詳細設定

6.1.2 ライブビュー

DSSSECURITY

一般パラメータの設定

出力インターフェースの設定、オーディオのミュートやオン、イベント出力インターフェースなどを行うことができます。

手順

1. コンフィギュレーション→システムライブビュー→全般

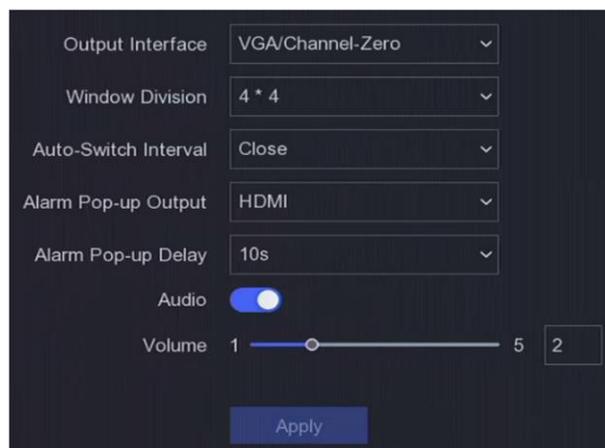


図 6-4 ライブビュー一般

2. ライブビューパラメータを設定します。

ウィンドウ分割画面

ライブビュー分割を選択します。

オートスイッチ間隔

ライブビューでのオートスイッチが有効になっているときに、次のカメラに切り替える前にカメラに滞留する時間。

アラームのポップアップ出力

アラーム映像を表示する出力を選択します。

アラームのポップアップ遅延

アラームイベント画像を表示する時間を設定します。

オーディオ

選択したビデオ出力のオーディオ出力をON/OFFします。

容量

選択したビデオ出力インターフェースのライブビュー、再生、および双方向オーディオ音量を調整します。

3. 適用をクリックします。

ライブビューレイアウトの設定

手順

1. 設定→システムライブビュー→ビュー。
2. 出力インターフェースを設定します。
3. ウィンドウを選択し、表示したい一覧をカメラをダブルクリックします。+画面にカメラが表示されないことを意味します。
4. オプション:  また  をクリックするとすべてのカメラのライブビューを開始または停止します。
5. 適用をクリックします。

Channel-Zero Encoding の設定

画像の質に影響を及ぼさずに必要な帯域幅を減らすために、ブラウザやCMS (Client Management System)ソフトウェアから多くのチャンネルをリアルタイムでリモートの場合は、チャンネルゼロ符号化を有効にします。

手順

1. コンフィギュレーション→システムライブビュー→全般。
2. ビデオ出力インターフェースをチャンネルゼロに設定します。
3. 「→ System → Live View → Channel-Zero」に移動します。

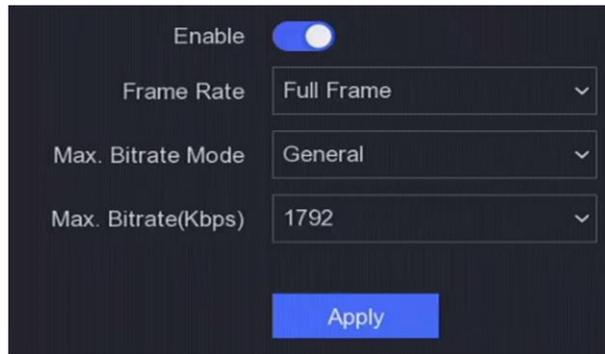


図 6-5 チャンネルゼロ

4. 有効をオンにします。
5. フレームレート、最大を設定します。Bitrate Mode(ビットレートモード)および最大(Max)フレームレート。高いフレームレートおよびビットレートは、高い帯域幅が必要となる。
6. 適用をクリックします。

6.1.3 ユーザー

詳細は「ユーザー」を参照してください。

6.2 ネットワーク構成

6.2.1 TCP/IP

ネットワーク上でビデオレコーダを操作する前に、TCP/IPを正しく設定する必要があります。

手順

1. コンフィギュレーション→全般→ TCP/IP。
2. ネットワークパラメータを設定します。

ワーキングモード

- マルチアドレスモード:
 - 2 枚の NIC カードのパラメータは、個別に設定できます。パラメータ設定のNICタイプ フィールドで LAN1 または LAN2 を選択できます。デフォルトルートとして1枚のNICカードを選択できます。その後、システムはエクストラネットに接続し、データはデフォルトルートを通じて転送されます。
- Net-fault Toleranceモード:
 - 2 枚のNICカードは同じIPアドレスを使用し、Main NICはLAN1またはLAN2を選択できます。これにより、1枚のNICカードが故障した場合、ビデオレコーダは自動的に他のスタンバイNICカードを有効にし、システム全体の正常な動作を確保します。
- ロードバランスモード:

- 同じIPアドレスを使用し、2つのNICカードが総帯域幅の負荷を共有することで、システムは2つのギガビットネットワーク容量を提供できます。

注

ワーキングモードは、特定のモデルのみ使用できます。

NIC タイプ

ご要望に応じてNICタイプを選択します。

DHCP

DHCPサーバーが使用可能な場合は、「DHCPを有効にする」をオンにして、IPアドレスとその他のネットワーク設定をそのサーバーから自動的に取得できます。

MTU

最大伝送単位(MTU)は、単一のネットワークトランザクションで通信できる最大のネットワークプロトコルデータ単位のサイズです。

DNSの自動取得

DHCPがチェックされている場合。「DNSを自動的に取得する」をオンにすると、優先DNSサーバーと代用DNSサーバーを取得できます。

3. 適用をクリックします。

6.2.2 DDNS

動的ドメインネームサーバー(DDNS)は、動的ユーザIPアドレスを固定ドメインネームサーバーにマッピングします。

開始前

ISPでDynDNS、PeanutHull、NO-IPサービスを登録します。

手順

1. 「設定→ネットワーク→一般→DDNS」に進みます。

Enable

DDNS Type DynDNS

Server Address

Device Domain Name

User Name

Password

Status DDNS is disabled.

Apply

図6-6 DDNS

2. 有効をオンにします。
3. DDNSタイプを選択します。
4. サービスアドレス、ドメイン名などのパラメータを入力します。
5. 適用をクリックします。

次のステップ

DDNSステータスはStatusで表示できます。

6.2.3 NAT

クロスセグメントネットワークを介したリモートアクセスでポートマッピングを実現するために、2つの方法があります。UPnP™又は手動マッピングです。

開始前

UPnP™が必要な場合は、ルータのUPnP™機能を有効にします。デバイスネットワークの動作モードがマルチアドレスの場合、デフォルトのデバイスルートはルータのLAN IPアドレスと同じネットワークセグメントの必要があります。

手順

1. 「設定→ネットワーク→一般→」に移動します。

Type	Operation	External Port	External IP Address	Internal Port	UPnP Status
HTTP Port	🔗	80	0.0.0.0	80	Inactive
RTSP Port	🔗	554	0.0.0.0	554	Inactive
Server Port	🔗	8000	0.0.0.0	8000	Inactive
HTTPS Port	🔗	443	0.0.0.0	443	Inactive
HIK Cloud P2P Comman...	🔗	9010	0.0.0.0	9010	Inactive
Cloud P2P Data Port	🔗	9020	0.0.0.0	9020	Inactive

図6-7 NAT

- 有効をオンにします。
- マッピングタイプのマニュアル又は自動を選択します。

自動

ポートマッピング項目は読み取り専用で、外部ポートはルータにより自動的に設定されます。ポートマッピングの最新のステータスを取得するには、Refresh(更新)をクリックします。

マニュアル

🔗外部ポートタイプを選択します。クリックして外部ポートを編集します。デフォルトの外部ポート番号を使用するか、状況に応じて変更できます。外部ポートは、ルータ内のポートマッピング用のポート番号を示します。

RTSPポート番号の値は554または1024～65535で、他のポートの値は1～65535で、値は互いに異なる必要があります。同一ルータ下のUPnP™設定に複数の機器が設定される場合、各機器のポート番号の値は唯一である必要があります。

- 内部ソースポート、外部ソースポートなど、ルータの仮想サーバを設定します。仮想サーバパラメータは、デバイスポートに対応する必要があります。

6.2.4 NTP

お使いのデバイスは、NTP(Network Time Protocol)サーバーに接続して、システム時刻が正確であることを確認できます。

手順

- 「設定→ネットワーク→一般」に移動します。
- 有効をオンにします。
- パラメータを入力します。

間隔

NTPサーバとの2つの時刻同期間の時間間隔。

NTPサーバ

NTPサーバのIPアドレス。

4. 適用をクリックします。

6.2.5 ポート(その他の設定)

必要に応じて、さまざまなポートタイプを設定し、関連する機能を有効にします。
設定→全般→詳細設定に進みます。

アラームホストIP/ポート

デバイスは、アラームがトリガされると、アラームイベントまたは意外メッセージをアラームホストに送信する。リモートアラームホストには、クライアント管理システム(CMS) ソフトウェアがインストールされている必要があります。

アラームホストIPは、CMS ソフトウェア(iVMS-4200 など) がインストールされているリモートPCのIPアドレスを参照し、アラームホストポート(デフォルトは7200)は、ソフトウェアに設定されているアラーム監視ポートと同じである必要があります。

サーバーポート

リモートクライアントソフトウェアアクセス用で範囲は2000~65535です。デフォルト値は8000です。

HTTPポート

リモートWebブラウザアクセス用でデフォルト値は80です。

マルチキャストIP

マルチキャストは、ネットワークを介して許可される最大数を超えるカメラのライブビューを可能にするように構成することができます。マルチキャストIPアドレスは224.0.0.0~239.255.255.255の範囲のClass-D IPをカバーし、239.252.0.0~239.255.255.255の範囲のIPアドレスを使用することをお勧めします。

CMSソフトウェアにデバイスを追加する場合、マルチキャストアドレスはデバイスのアドレスと同じである必要があります。

RTSPポート

RTSP (Real Time Streaming Protocol)は、ストリーミングメディアサーバーをコントロールするエンターテインメントおよび通信システムで使用するために設計されたネットワークコントロールプロトコルです。デフォルトのポートは554です。

出力帯域幅制限

チェックボックスをオンにすると、出力帯域幅の制限を有効にできます。

出力帯域幅

出力帯域制限を有効にした後、出力帯域を入力します。

注

- 出力帯域幅限界は、リモート・ライブビューおよび再生に使用される。
 - デフォルトの出力帯域幅は最大制限です。
-

Alarm Host IP	<input type="text"/>
Alarm Host Port	<input type="text" value="0"/>
Server Port	<input type="text" value="8000"/>
HTTP Port	<input type="text" value="80"/>
Multicast IP	<input type="text"/>
RTSP Port	<input type="text" value="554"/>
<input type="button" value="Apply"/>	

図6-8 ポート設定

6.2.6 ISUP

SDKは、インテリジェント・セキュリティ・アップリンク・プロトコル(ISUP)に基づいている。これは、NVR、スピードドーム、DVR、ネットワークカメラ、NVR、モバイルデバイス、デコーディングデバイスなどのデバイスにアクセスするために、サードパーティプラットフォームにAPI、ライブラリファイル、およびコマンドを提供します。このプロトコルにより、サードパーティプラットフォームは、ライブビュー、再生、双方向オーディオ、PTZ制御などの機能を実現することができます。

手順

注

ISUP機能は、Kシリーズ、DS-7600NI-Qシリーズのみ使用できます。

1. 「設定→ネットワークプラットフォームアクセス」に移動します。
2. ISUPにタイプを設定します。

Type	ISUP
Enable	<input checked="" type="checkbox"/>
Server Address	
Server Port	7660
Online Status	Offline
Device ID	787015728
Version	ISUP5.0
Encryption Password	*****
<input type="button" value="Apply"/>	

図6-9 ISUP

- 有効をオンにします。



ISUPを有効にすると、他のプラットフォームアクセスが無効になります。

- 関連パラメータを設定します。

サーバーアドレス

プラットフォームサーバのIPアドレス。

サーバーポート

プラットフォームサーバのポートの範囲は1024～65535です。実際のポートは、プラットフォームによって提供されるものとする。

デバイスID

デバイスIDは、プラットフォームによって提供されるものとする。

バージョン

ISUPプロトコルバージョン。V5.0のみ使用できます。

暗号化パスワード

ISUP V5.0バージョンを使用する場合は、暗号化パスワードが必要です。これにより、デバイスとプラットフォーム間の通信がより安全になります。デバイスがISUPプラットフォームに登録された後、検証のために入力します。

- 適用をクリックして設定を保存し、デバイスを再起動します。

次に行うこと

デバイスの再起動後、オンラインステータス(オンラインまたはオフライン)を確認できます。

6.2.7 ガーディングビジョン

「設定→ネットワークプラットフォームアクセス」に移動します。詳細については、ガーディングビジョンを参照。

6.2.8 電子メール

「設定→ネットワーク→電子メール」に移動します。詳細は電子メールを参照してください。

6.3 カメラ管理

6.3.1 ネットワークカメラ

自動検索オンラインネットワークカメラの追加

ビデオレコーダーにネットワークカメラを追加します。

開始する前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメント上にあることを確認します。
- ネットワーク接続が有効で正しいことを確認します。
- ネットワークカメラのパスワードがビデオレコーダーと同じであることを確認します。

手順

1. 「設定→カメラ→カメラ→IPチャンネル」に移動します。
2. オンラインデバイスリストをクリックします。同じネットワークセグメント上のオンラインカメラがリストに表示されます。

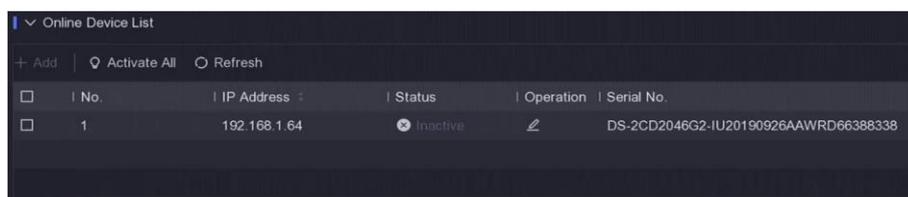


図 6-10 オンラインデバイス

3. ネットワークカメラを選択し、[追加]をクリックして追加します。

ネットワークカメラを手動で追加する

ビデオレコーダーにネットワークカメラを追加します。

開始前

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメント上にあることを確認します。

- ネットワーク接続が有効で正しいことを確認します。
- ネットワークカメラが有効になっていることを確認します。

手順

1. 「設定→カメラ→カメラ→IPチャンネル」に移動します。
2. **+**クリック

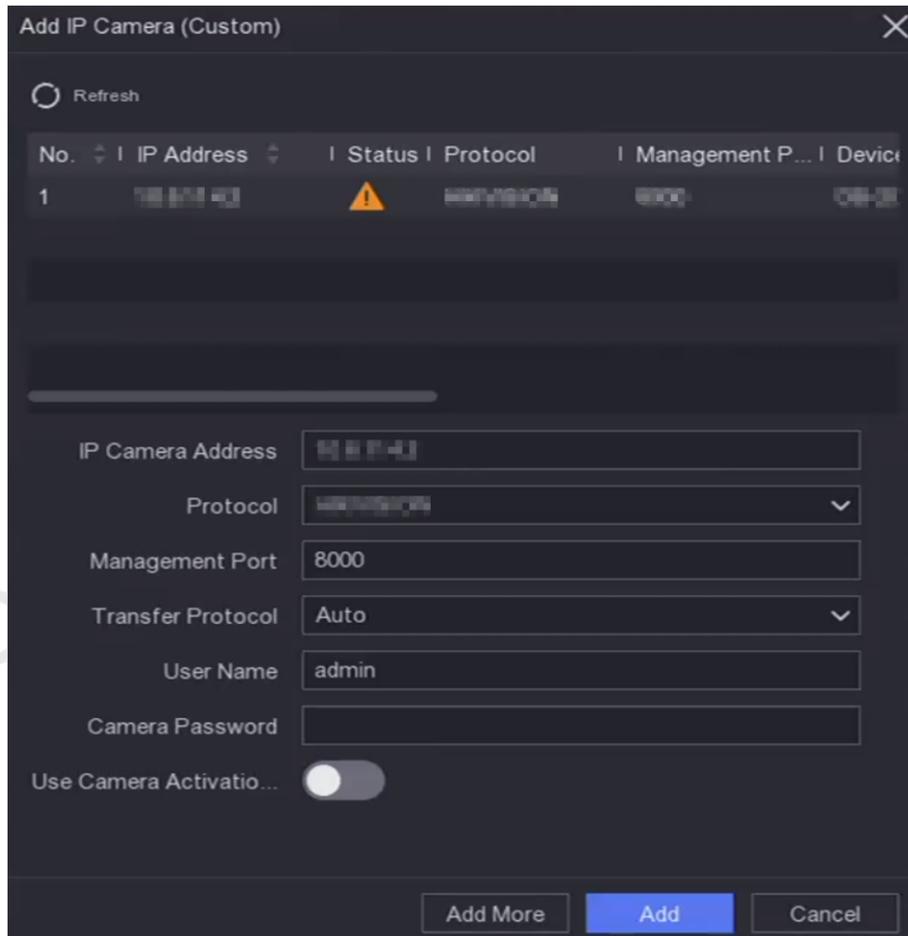


図 6-11 IP カメラの追加

3. ネットワークカメラパラメータを入力します。

チャンネルのデフォルトパスワードを使用します

ビデオレコーダは、設定されたチャンネルデフォルトパスワードによってカメラを追加する。

4. 追加をクリックします。

接続したネットワークカメラの編集

追加したネットワークカメラのIPアドレス、プロトコルなどのパラメータを編集できます。

手順

1. 「設定→カメラ→カメラ→IPチャンネル」に移動します。

2. をクリックし、ネットワークカメラを追加します。

チャンネルポート

接続機器が複数チャンネルのエンコード機器の場合、ドロップダウンリストでチャンネルポート番号を選択することで接続するチャンネルを選択できます。

3. [OK]をクリックします。

ネットワークカメラのアップグレード

ネットワークカメラは、デバイスを介して遠隔でアップグレードすることができる。

開始する前に

- USBフラッシュドライブがデバイスに挿入されており、ネットワークカメラのアップグレードファームウェアが含まれていることを確認します。
- ネットワークカメラがビデオレコーダと同じネットワークセグメント上にあることを確認します。
- ネットワーク接続が有効で正しいことを確認します。

手順

1. 「設定→カメラ→カメラ→IPチャンネル」に移動します。
2. をクリックします
3. 「はい」をクリックして確認します。
4. ストレージデバイスからカメラアップグレードファームウェアを選択します。
5. アップグレードをクリックしてアップグレードを開始します。アップグレードが完了すると、カメラが自動的に再起動します。

Advanced Camera パラメータs の設定

カメラのIPアドレス、カメラのパスワードなど、高度なカメラパラメータを設定できます。

開始前

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメント上にあることを確認します。
- ネットワーク接続が有効で正しいことを確認します。

手順

1. 「設定→カメラ→カメラ→IPチャンネル→IPカメラ」に移動します。
2. をクリックします。
3. IPアドレス、カメラパスワードなどのカメラパラメータを設定します。
4. 適用をクリックします。

PoE経由でネットワークカメラを追加する

PoEインターフェースは、デバイスが、接続されたPoEカメラに電源およびデータを転送することを可能にする。また、PoEインターフェースはプラグアンドプレイ機能をサポートしています。接続可能なPoEカメラの台数は、機種によって異なります。PoEインターフェースを無効にすると、オン

ラインネットワークカメラにも接続できます。

PoEカメラの追加

手順

1. 設定→カメラ→PoE設定に移動します。
2. 長距離または短距離を選択して、長いネットワークケーブルモードを有効または無効にします。

長距離

PoEインターフェースを介した長距離(100～300メートル)でネットワーク伝送します。

短距離

PoEインターフェースを介した短距離(<100メートル)でネットワーク伝送します。

注

- PoEポートは、デフォルトで短距離モードで有効になっています。
- 長いネットワークケーブル(100～300m)を介してPoEに接続されているIPカメラの帯域幅は6 Mbpsを超えることはできません。
- 最大長いネットワークケーブルは、異なるIPカメラモデルおよびケーブル材料に応じて、300メートル未満の場合もあります。
- 伝送距離が100～250mに達した場合は、CAT5eまたはCAT6ネットワークケーブルを使用してPoEインターフェースに接続する必要があります。
- 伝送距離が250～300mに達した場合は、CAT6ネットワークケーブルを使用してPoEインターフェースに接続する必要があります。

Channel No.	Long Distance	Short Distance	Channel Status	Actual Power
D1	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	Disconnected	0.0
D2	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	Disconnected	0.0
D3	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	Disconnected	0.0
D4	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	Disconnected	0.0
D5	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	Disconnected	0.0
D6	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	Disconnected	0.0
D7	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	Disconnected	0.0
D8	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	Connected	3.6
D9	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	Disconnected	0.0
D10	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	Disconnected	0.0
D11	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	Disconnected	0.0
D12	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	Disconnected	0.0
D13	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	Disconnected	0.0
D14	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	Disconnected	0.0
D15	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	Disconnected	0.0

図 6-12 PoEカメラの追加

3. 適用をクリックします。
4. PoEカメラをネットワークケーブルを使用してデバイスのPoEインタフェースに接続します。

次のステップ

接続されているPoEカメラは、「設定→カメラ→カメラ→チャンネル」に表示されます。そのステータスをクリックすると、ライブ画像を見ることができます。

Non-PoE Network Cameraの追加

PoEチャンネルリソースを使用して、非PoEネットワークカメラを接続できます。

手順

1. 「設定→カメラ→カメラ→IPチャンネル」に移動します。
2. ネットワークカメラがリンクされていないチャンネルをクリックします。✎
3. ManualとしてAdding Methodを選択します。

プラグアンドプレイ

カメラは、PoEインターフェースに物理的に接続される。追加したデバイスリストをクリックして、パラメーターを編集できます。⚙

マニュアル

ネットワークケーブルを介して物理的に接続することなく、IPカメラを追加します。

4. ユーザー名、パスワード、IPアドレスなど、その他のパラメータを設定します。

チャンネルタイプの設定

PoEチャンネルを無効にして、通常のIPチャンネルリソースを追加で増やすことができます。

設定→カメラ→カメラ→のPoEバインディング設定に進み、PoEチャンネルを希望通りに設定します。



図6-13 PoE バインド設定

IPカメラ設定ファイルのインポート/エクスポート

追加したネットワークカメラの情報をエクセルファイルに生成し、IPアドレス、ポート、管理者のパ

スワードなどをローカルデバイスにエクスポートしてバックアップできます。また、エクスポートしたファイルは、コンテンツの追加や削除など、コンピュータ上で編集したり、エクセルファイルをインポートして他のデバイスに設定をコピーすることができます。

開始前

USBフラッシュドライブなどのバックアップデバイスをビデオレコーダーに接続します。

手順

1. 「設定→カメラ→カメラ→IPチャンネル」に移動します。
2. Export/Import(エクスポート/インポート)をクリックして、接続されたバックアップデバイスに設定ファイルをエクスポート/インポートします。
3. ストレージデバイスとフォルダパスを設定します。
4. エクスポート/インポートをクリックします。

次のステップ

インポート処理が完了したら、ビデオレコーダーを再起動する必要があります。

詳細設定

手順

1. 「設定→カメラ→カメラ→IPチャンネル」に移動します。
2. その他をクリックします。
3. 必要に応じてパラメータを設定します。

H.265自動スイッチ設定

オプションを有効にすると、ビデオレコーダは、最初のアクセスのために(H.265ビデオフォーマットをサポートする)ネットワークカメラ用のH.265ストリームに自動的に切り替わります。

アップグレード

追加したネットワークカメラをアップグレードします。

プロトコル

標準プロトコルで設定されていないネットワークカメラを接続するには、カスタマイズしたプロトコルを設定します。システムは16のカスタマイズされたプロトコルを提供します。

カメラ起動パスワード設定

ネットワークカメラの起動と追加のために、デフォルトのパスワードを変更します。

6.3.2 ディスプレイ設定

OSD (On-Screen Display)、画像設定、露出設定、昼夜スイッチ設定などを設定します。

手順

1. 「設定→カメラ→画面」に移動します。

2. カメラを設定します。
3. 必要に応じてパラメータを設定します。

OSD設定

日付/時刻、カメラ名など、カメラのOSD (オンスクリーンディスプレイ)を設定します。

画像設定

ライブビューや録画露出の明るさ、コントラスト、彩度などの画像パラメータをカスタマイズします。

露光

カメラの露出時間(1/10000～1秒)を設定します。露出値が大きいほど、画像が明るくなる。

デイ/ナイトスイッチ

周囲の明るさに応じて、日中、夜間、オートスイッチの設定ができます。

バックライト

カメラのワイドダイナミックレンジ(0～100)を設定します。周囲の照明と対象物の明るさの差が大きい場合は、WDR値を設定する必要があります。

画像強調

最適化された画像コントラスト向上のためのものです。

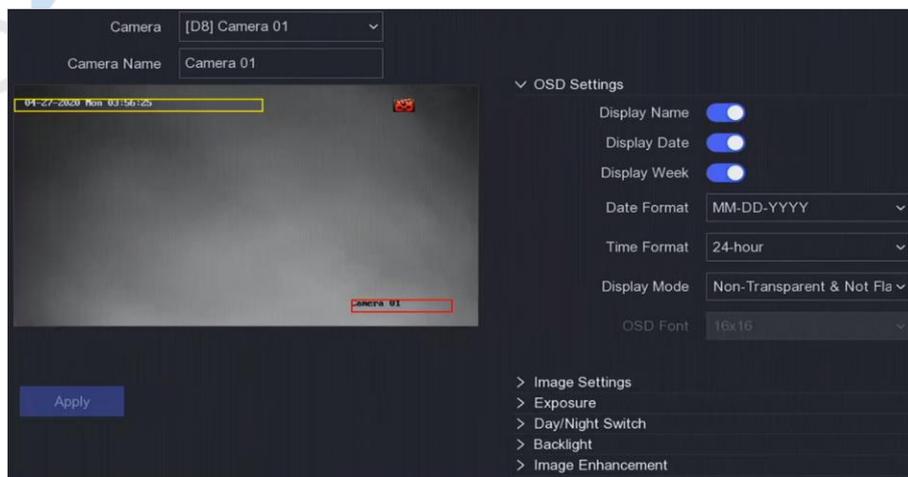


図6-14 OSD

4. プレビューウィンドウ上のテキストフレームをドラッグして、OSD位置を調整します。
5. 適用をクリックします。

6.3.3 プライバシーマスク

表示または記録できないプライバシーマスク領域を設定できます。

手順

1. 「設定→カメラ→プライバシーマスク」に移動します。
2. カメラを選択します。
3. 有効をオンにします。

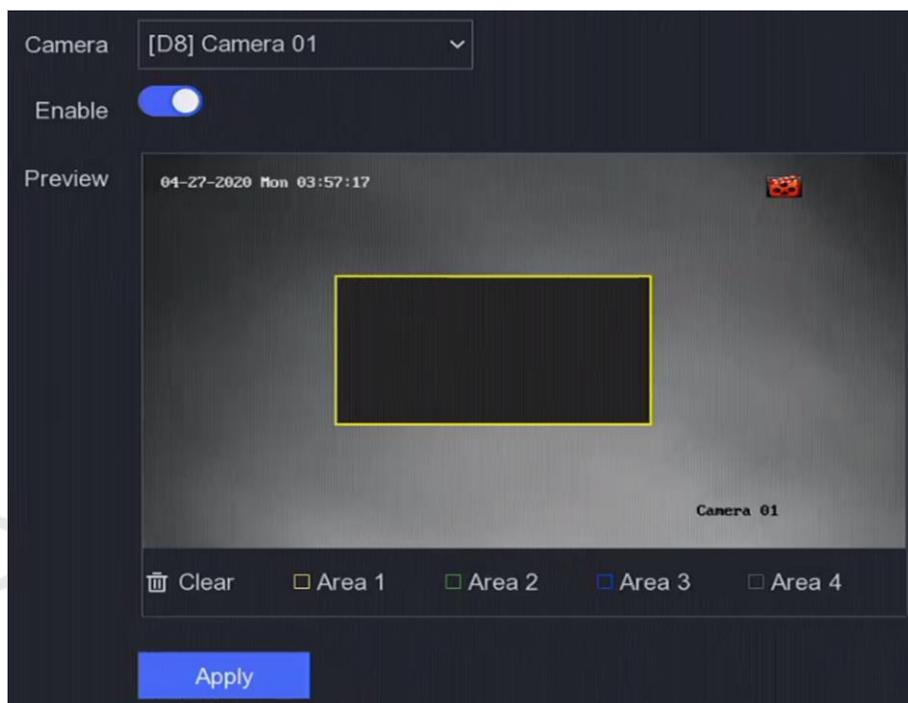


図6-15 プライバシーマスク

4. ドラッグして、ウィンドウ上にエリアを描きます。領域のフレームは、異なる色でマークされます。

注

最大4つのプライバシーマスクエリアを設定できます。各領域のサイズは調整可能です。

5. 適用をクリックします。

6.4 イベント設定

6.4.1 正常なイベント

動き検出

動き検出は、ビデオレコーダが監視領域内の移動物体を検出し、警報をトリガすることを可能にします。詳細は「動き検出」を参照してください。

ビデオ・タンパリング

レンズがカバーされているときにアラームを作動させ、アラーム応答アクションを実行します。

手順

1. 設定→イベント→通常イベント→ビデオ改ざんに移動します。

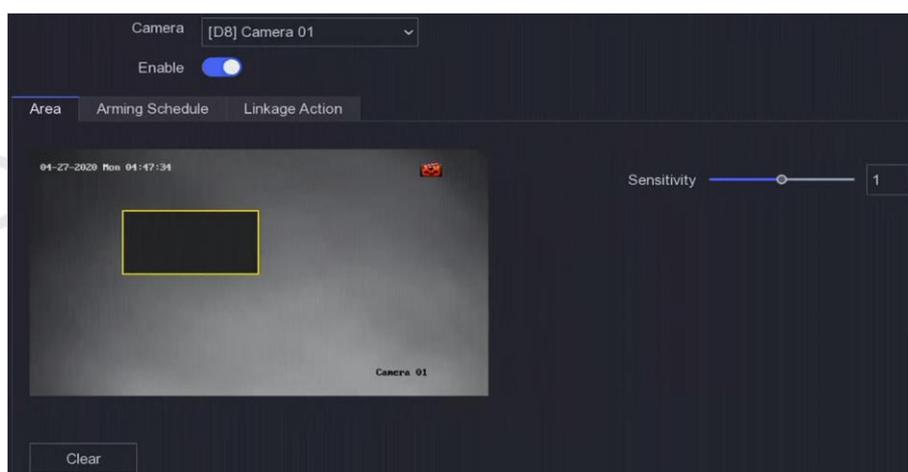


図 6-16 ビデオ・タンパリング

2. カメラを設定します。
3. 有効をオンにします。
4. 感度を調整します。値が高いほど、ビデオ改ざんをより容易にトリガすることができる。
5. アーミングスケジュールを設定します。詳細については、「Configure アラームスケジュール」を参照してください。
6. リンクアクションを設定します。詳細については、「アラームリンクアクションの設定」を参照してください。
7. 適用をクリックします。

ビデオロス

カメラのビデオ損失を検出し、アラーム応答アクションを実行します。

手順

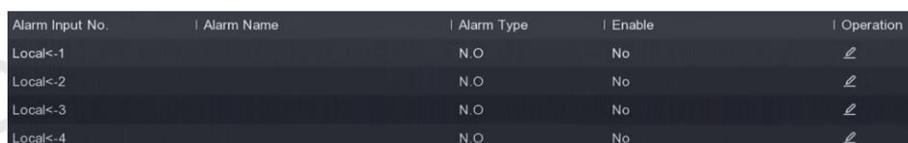
1. 設定→イベント→通常イベント→ビデオロスに移動します。
2. カメラを設定します。
3. 有効をオンにします。
4. アーミングスケジュールを設定します。詳細については、「Configure アラームスケジュール」を参照してください。
5. リンクアクションを設定します。詳細については、「アラームリンクアクションの設定」を参照してください。
6. 適用をクリックします。

アラーム入力

外部センサアラームの連動動作を設定します。

手順

1. 設定→イベント→正常イベント→アラームインプットに進みます。



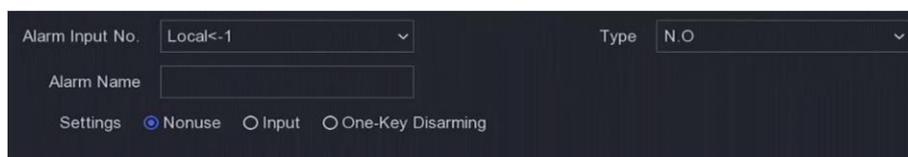
Alarm Input No.	Alarm Name	Alarm Type	Enable	Operation
Local<-1		N.O	No	
Local<-2		N.O	No	
Local<-3		N.O	No	
Local<-4		N.O	No	

図6-17 アラーム入力

注

ローカルアラーム入力: ローカルアラーム入力は、ビデオレコーダの端子台に接続された外部デバイスによってトリガされます。

2. 希望のアラーム入力をクリックします。



Alarm Input No. Local<-1 Type N.O

Alarm Name

Settings Nonuse Input One-Key Disarming

図 6-18 アラーム入力の編集

3. アラーム名をカスタマイズします。
4. アラームの種類をN.O (常開)またはN.C (常閉)に設定します。
5. Settings as Inputを設定して機能を有効にします。

注

設定を「使用しない」に設定すると、アラーム入力は無効になります。設定を「ワンキー解除」に設定すると、選択したアラーム入力のリンク方法は無効になります。

6. アーミングスケジュールを設定します。詳細については、「Configure アラームスケジュール」を参照してください。
7. リンクアクションを設定します。詳細については、「アラームリンクアクションの設定」を参照してください。
8. 適用をクリックします。

アラーム出力

アラームがトリガーされると、アラーム出力をトリガーします。

手順

1. 設定→イベント→正常イベント→アラームアウトプットに進みます。

Alarm Output No.	Alarm Name	Dwell Time	Operation
Local->1		5s	

図6-19 アラーム出力

2. 希望のアラーム出力をクリックします。
3. アラーム名をカスタマイズします。
4. Dwell Timeを選択します。

Alarm Output No. Local->1 Dwell Time 5s Alarm Status Close

Arming Schedule

Continuous Clear Edit Clear All

	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24
Mon	<input checked="" type="checkbox"/>												
Tue	<input checked="" type="checkbox"/>												
Wed	<input checked="" type="checkbox"/>												
Thu	<input checked="" type="checkbox"/>												
Fri	<input checked="" type="checkbox"/>												
Sat	<input checked="" type="checkbox"/>												
Sun	<input checked="" type="checkbox"/>												

Copy to Trigger Apply

図 6-20 アラーム出力の編集

5. Settings as Inputを設定して機能を有効にします。
6. アーミングスケジュールを設定します。詳細については、「Configure アラームスケジュール」を参照してください。
7. 適用をクリックします。

意外

意外イベントは、ライブビューウィンドウ内のイベントヒントを取得し、アラーム出力およびリンクージアクションをトリガするように構成することができる。

手順

1. 「設定→イベント→正常イベント→除外」に移動します。
2. イベントヒントを設定します。設定されたイベントが発生すると、アラーム・センターでヒントが受信されます。
 - 1) イベントヒントを有効にします。
 - 2) ヒントする事象を選択します。以下より選びます
 - イベントヒント設定をクリックしてイベントを選択します。⚙️
 - ローカルメニューの右上隅にあるをクリックしてアラームセンターに入り、イベントを選択します。🔔
3. 意外タイプを選択して、その連動アクションを設定します。

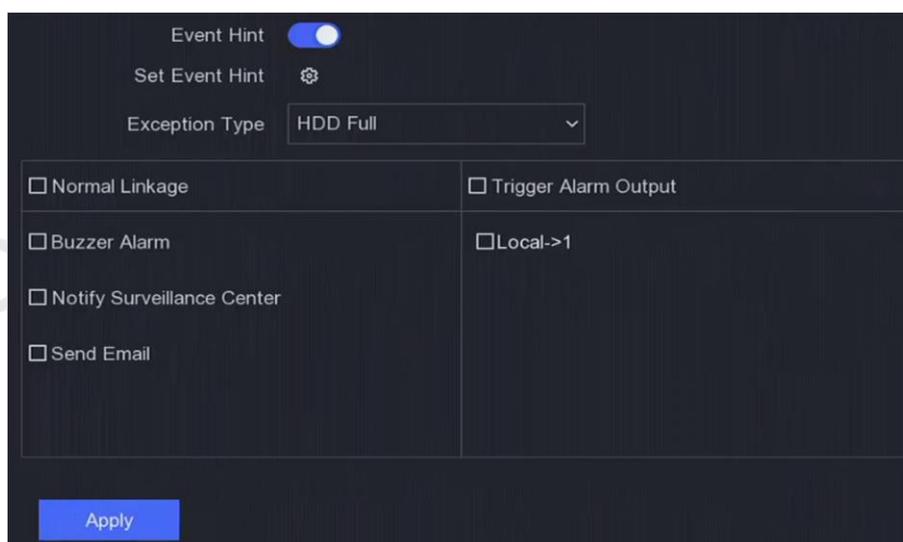


図6-21 意外

4. アーミングスケジュールを設定します。詳細については、「Configure アラームスケジュール」を参照してください。
5. 適用をクリックします。

6.4.2 スマートイベント

ラインクロス検出

ラインクロス検出は、設定された仮想線を横切る人、車両、および物体を検出する。検出方向

は、左から右へ、または右から左への双方向として設定することができる。

手順

1. 設定→イベント→スマートイベントクロッシングに移動します。
2. カメラを設定します。
3. 有効をオンにします。
4. オプション: VCA Pictureの保存をチェックして、取り込んだVCA検出のピクチャを保存します。
5. 検出ルールと検出エリアを設定します。
 - 1) アーミングエリアを設定します。最大4つのアーミングエリアを選択できます。
 - 2) 方向をA<->B、A->B、またはA<-B に設定します。

A<->B

B側の矢印のみが示されている。構成された線を両方向に横切る物体を検出し、警報をトリガすることができる。

A->B

A側からB側に構成された線を横切る物体のみを検出することができる。

B->A

B側からA側に構成されたラインを横切る物体のみを検出することができる。

- 3) オプション:人間または車両としてターゲット検出を設定し、人間または車両によってトリガされないアラームを廃棄します。
- 4) Draw Areaをクリックし、検出領域の4つの頂点を指定して、プレビューウィンドウに四角形を描画します。
6. アーミングスケジュールを設定します。詳細については、「Configure アラームスケジュール」を参照してください。
7. リンクアクションを設定します。詳細については、「アラームリンクアクションの設定」を参照してください。
8. 適用をクリックします。

侵入検知

侵入検出機能は、予め定義された仮想領域に入り、そこを飛び越える人、車両、または物体を検出する。

手順

1. 設定→イベントスマートイベント→侵入に移動します。
2. カメラを設定します。
3. 有効をオンにします。
4. オプション: VCA Picture の保存をチェックして、取り込んだVCA検出のピクチャを保存します。
5. 検出ルールと検出エリアを設定します。
 - 1) アーミングエリアを設定します。最大4つのアーミングエリアを選択できます。
 - 2) Time Threshold and 感度を調整します。

感度

アラームを起動できるオブジェクトのサイズ。値が大きいほど、検出アラームがトリガされやすくなります。範囲は[1-100]です。

Time Threshold

範囲[1s-10s]、領域内でオブジェクトがロータリングする時間のしきい値。定義された検出領域内の物体の持続時間が設定時間よりも長い場合、アラームがトリガされる。

- 3) オプション: 目標検出を人間または車両に設定し、人間または車両では発生しないアラームを廃棄します。
- 4) Draw Area をクリックし、検出領域の4つの頂点を指定して、プレビューウィンドウに四角形を描画します。
6. アーミングスケジュールを設定します。詳細については、「Configure アラームスケジュール」を参照してください。
7. リンクアクションを設定します。詳細については、「アラームリンクアクションの設定」を参照してください。
8. 適用をクリックします。

領域入口検出

領域入口検出機能は、外部から所定の仮想領域に入る人、車両、または他の物体を検出し、アラームがトリガされると、いくつかのアクションをとることができる。

手順

1. 設定→のイベント→スマートイベントリージョン入口に移動します。
2. カメラを設定します。
3. 有効をオンにします。
4. オプション: VCA Pictureの保存をチェックして、取り込んだVCA検出のピクチャを保存します。
5. 検出ルールと検出エリアを設定します。
 - 1) アーミングエリアを設定します。最大4つのアーミングエリアを選択できます。
 - 2) 感度を調整します。感度: 範囲[0~100]。値が高いほど、検出アラームをトリガーしやすくなります。
 - 3) オプション: 人間または車両として目標検出を設定し、人間または車両によってトリガされないアラームを廃棄します。
 - 4) Draw Areaをクリックし、検出領域の4つの頂点を指定して、プレビューウィンドウに四角形を描画します。
6. アーミングスケジュールを設定します。詳細については、「Configure アラームスケジュール」を参照してください。
7. リンクアクションを設定します。詳細については、「アラームリンクアクションの設定」を参照してください。
8. 適用をクリックします。

領域終了検出

領域退出検出機能は、予め定義された仮想領域から退出する人、車両、または他の物体を検出し、アラームがトリガされると、いくつかのアクションをとることができる。

手順

1. 「設定→イベント→スマートイベントリージョンの終了」に移動します。
2. カメラを設定します。
3. 有効をオンにします。
4. オプション: VCA Pictureの保存をチェックして、取り込んだVCA検出の画像を保存します。
5. 検出ルールと検出エリアを設定します。
 - 1) アーミングエリアを設定します。最大4つのアーミングエリアを選択できます。
 - 2) 感度を調整します。感度:範囲[0~100]。値が高いほど、検出アラームをトリガーしやすくなります。
 - 3) オプション: 人間または車両として目標検出を設定し、人間または車両によってトリガされないアラームを廃棄します。
 - 4) Draw Area をクリックし、検出領域の4つの頂点を指定して、プレビューウィンドウに四角形を描画します。
6. アーミングスケジュールを設定します。詳細については、「Configure アラームスケジュール」を参照してください。
7. リンクアクションを設定します。詳細については、「アラームリンクアクションの設定」を参照してください。
8. 適用をクリックします。

サーマル検知

本装置は、サーマルネットワークカメラのイベント検出モード(火災検出、温度検出など)に対応しています。選択したイベントのアーミングスケジュールとリンクアクションを設定できます。

開始前

お使いの機器にサーマルネットワークカメラを追加し、カメラが起動していることを確認してください。

手順

1. 設定→イベント→スマートイベントに移動します。
2. サーマルカメラディテクションイベントを選択します。
3. カメラを設定します。
4. アーミングスケジュールを設定します。詳細については、「Configure アラームスケジュール」を参照してください。
5. リンクアクションを設定します。詳細については、「アラームリンクアクションの設定」を参照してください。
6. 適用をクリックします。

6.4.3 アラームスケジュール の設定

手順

1. アラームスケジュール をクリックします。
2. 曜日を1日選択し、時間区分を設定します。毎日8時間まで設定できます。



期間は、繰り返されたり、重複したりしてはならない。

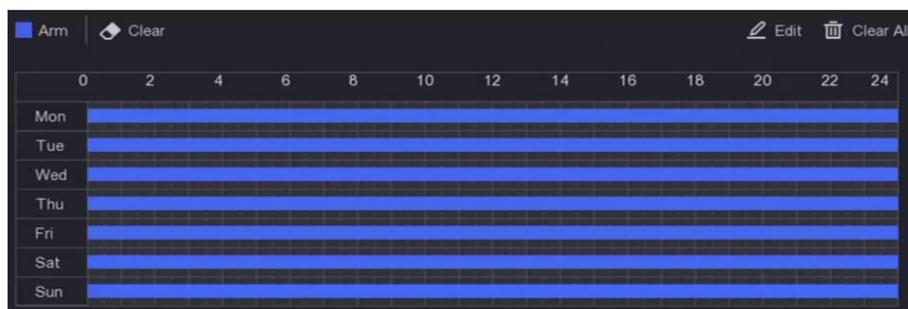


図 6-22 準備スケジュールの設定

3. 適用をクリックします。

6.4.4 アラームリンクアクションの設定

フルスクリーン監視の設定

アラームがトリガされると、ローカルモニタは、フルスクリーン監視のために構成されたアラームチャンネルからのビデオ画像をフルスクリーンで表示する。また、複数のチャンネルで同時にアラームがトリガされる場合は、オートスイッチのドウェル時間を設定する必要があります。

手順

1. コンフィギュレーション→システムライブビュー→全般に移動します。
2. イベント出力とドウェル時間を設定します。

アラームのポップアップ出力

イベントビデオを表示する出力を選択します。

アラームのポップアップ遅延

アラームイベント画像を表示する時間を秒単位で設定します。複数のチャンネルで同時にアラームが発生した場合は、10秒間隔(デフォルトのドウェル時間)でフルスクリーン画像が切り替わります。

3. アラーム検出のアクションインターフェースのリンクに進む。
4. 「全画面監視アラーム連動動作」を選択します。
5. Trigger Channel settings でフルスクリーンモニタリングを行うチャンネルを選択します。



アラームが停止すると、オートスイッチは終了し、ライブビューインタフェースに戻ります。

オーディオ警告の設定

オーディオ警告は、アラームが検出されたときにビープ音をビデオレコーダーにトリガーさせることを可能にします。

手順

1. コンフィギュレーション→システムライブビュー→全般に移動します。
2. オーディオの電源を入れ、音量を設定します。
3. アラーム検出のアクションインターフェースのリンクに進む。
4. 「Audio Warning alarm linkage action」を選択します。

通知監視センターNotify Surveillance Center

ビデオレコーダは、イベントが発生したときに、意外信号または警報信号を遠隔警報ホストに送ることができる。アラームホストとは、クライアントソフトウェア(例えば、iVMS-4200、iVMS-5200)がインストールされたコンピュータをいう。

手順

1. 設定→全般→ネットワーク設定に進みます。
2. Alarm Host IPと Alarm Host Portを設定します。
3. アラーム検出のアクションインターフェースのリンクに進む。
4. [Notify Surveillance Center] を選択します。

メール連動の設定

ビデオレコーダは、アラームが検出されると、アラーム情報を有する電子メールをユーザに送信することができる。

手順

1. 「設定→ネットワーク→電子メール」に移動します。
2. 設定を行います。
3. アラーム検出のアクションインターフェースのリンクに進みます。
4. アラームリンクアクションとして「メールへ送信」を選択します。

トリガアラーム出力

アラーム出力は、通常およびスマートイベントによってトリガすることができます。

手順

1. アラーム入力またはイベント検出の[連係動作]インターフェースに移動します。
2. トリガアラーム出力をクリックします。
3. トリガするアラーム出力を選択します。
4. 設定→イベント→正常イベント→アラームアウトプットに進みます。
5. 一覧からアラーム出力項目を選択します。詳細は、アラーム出力を参照してください。

PTZ連携の設定

ビデオレコーダは、アラームイベントまたはVCA検出イベントが発生したときに、PTZアクション(例えば、コールプリセット/パトロール/パターン)をトリガすることができます。

手順

1. アラーム入力またはVCA検出の連携動作インターフェースに進みます。
2. PTZリンクを選択します。
3. PTZアクションを実行するカメラを選択します。
4. アラーム発生時に呼び出すプリセット/パトロール/パターン番号を選択します。



図6-23 PTZ リンク



注

PTZタイプは、リンクアクションごとに1つしか設定できません。

Audio and Light Alarm Linkageの設定

一部のネットワークカメラでは、アラーム連動動作をオーディオアラームまたはライトアラームに設定できます。

開始前に

- お使いのカメラがオーディオと可視光線のアラーム連動に対応していることを確認してください。
- オーディオ出力と音量が正しく設定されていることを確認します。

6.5 記録管理

6.5.1 録画スケジュールの設定

ビデオレコーダーは、設定したスケジュールに従って自動的に録画を開始/停止します。

連続録画の設定

手順

1. 設定→レコード→パラメータに移動します。
2. カメラのメインストリーム/サブストリームパラメータを設定します。
3. 「設定→レコード→予定」に移動します。
4. 「連続」の記録タイプを選択します。

イベント録画の設定

通常イベントまたはスマートイベントによってトリガーされる録画を設定できます。

手順

1. 「設定→実施項目」に進みます。
2. イベント検出を設定し、カメラを選択して、イベントが発生したときに記録をトリガします。
3. 設定→レコード→パラメータに移動します。
4. カメラのメインストリーム/サブストリームパラメータを設定します。
5. 「設定→レコード→予定」に移動します。
6. 「イベント」の記録タイプを選択します。

スケジュール録画の設定

手順

1. 「設定→レコード→予定」に移動します。

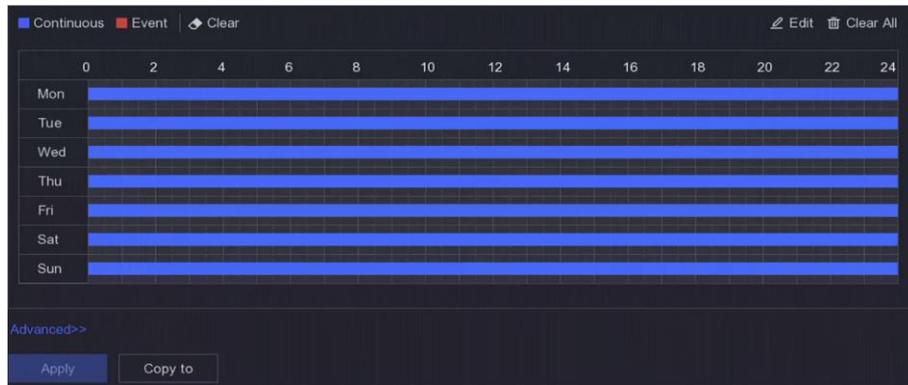


図 6-24 記録スケジュール

連続

連続記録。

イベント

すべてのイベント・トリガー・アラームによってトリガーされた記録。

2. Camera No.でカメラを選択します。
3. 有効をオンにします。
4. 録画スケジュールを設定します。
 - 1) 編集をクリックします。
 - 2) 曜日に設定する曜日を選択します。
 - 3) 終日録画スケジュールを設定するには、「終日」をチェックして「スケジュール種別」を選択します。
 - 4) その他のスケジュールを設定するには、「すべての日」のチェックを外し、「開始/終了時刻」と「スケジュールタイプ」を設定します。

注

1 日に最大8つの期間を設定できます。そして、期間を重複させることはできない。

- 5) 「OK」をクリックして設定を保存し、上位のメニューに戻ります。

注

「連続」または「イベント」としてスケジュールタイプを選択し、目的の期間にカーソルをドラッグして色付きのバーを描くこともできます。

5. 詳細パラメータを設定するには、詳細をクリックします。

録音

音声はビデオファイルに録音されます。

事前記録

予約時刻またはイベントの前に録画するように設定した時刻。たとえば、10:00にアラームが

鳴った場合、録画前時刻を5秒に設定した場合、カメラは9:59:55に録画します。

事後記録

イベント後またはスケジュールされた時刻に記録するように設定した時刻。たとえば、アラームトリガー記録が11:00に終了し、記録後時刻を5秒に記録すると、11:00:05まで記録されます。

ストリームタイプ

メインストリームおよびサブストリームは、記録のために選択可能である。サブストリームを選択すると、同じHDDでより長い時間録画できます。

ビデオ/ピクチャ有効期限

有効期限は、記録されたファイルがHDDに保存される期間である。期限に達すると、ファイルは削除されます。期限切れ時間を0に設定すると、ファイルは削除されません。ファイルの実際の保存時間は、HDDの容量によって決定されるべきである。

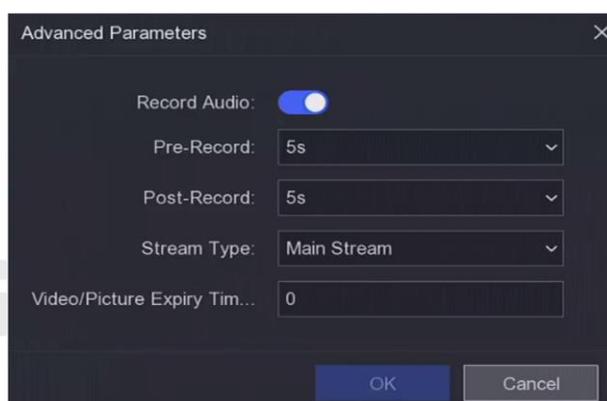


図6-25 詳細パラメータ

6. OK をクリックして、詳細設定を保存します。
7. 適用をクリックします。

6.5.2 記録パラメータの設定

手順

1. 「設定→レコード→パラメータ」に移動して、カメラメインストリームおよびサブストリームパラメータを設定します。
2. 記録パラメータを設定します。

メインストリーム

メインストリームとは、ハードディスクドライブに記録されたデータに影響を及ぼすプライマリストリームを指し、ビデオの品質と画像サイズを直接決定します。サブストリームと比較すると、メインストリームは、より高い解像度およびフレームレートを有するより高品質のビデオを提供する。

サブストリーム

サブストリームは、メインストリームと並行して実行される2 番目のコーデックです。これにより、ダイレクトレコーディングの品質を犠牲にすることなく、送信インターネット帯域幅を削減することができます。サブストリームは、ライブビデオを見るためにスマートフォンアプリケーションによって専ら使用されることが多い。制限されたインターネット速度を有するユーザは、この設定から最も利益を得ることができる。

フレームレート

フレームレートは、毎秒いくつのフレームが捕捉されるかを指す。より高いフレームレートは、ビデオストリームに動きがあるときに、全体を通して画質を維持するので有利である。

解像度

画像解像度は、デジタル画像がどれだけのディテールを保持することができるかの尺度であり、解像度が大きいほど、ディテールのレベルが大きくなる。解像度は、ピクセル列の数(幅)×ピクセル行の数(高さ)、例えば、1024×768として指定することができる。

ビットレート

ビットレート(kbit/sまたはMbit/s)は、しばしば速度と呼ばれるが、実際には、距離/時間単位ではなく、ビット/時間単位の数を定義する。

Enable H.264+/Enable H.265+

H.264+/H.265+モードは、低いビットレートで高いビデオ品質を保証するのに役立つ。これは、帯域幅およびHDD録画スペースの必要性を効果的に低減することができる。

3. 適用をクリックします。

6.5.3 ストレージデバイス

HDD初期化

HDDを初めて使用する場合は、インストール後に初期化してください。

開始前に

ビデオレコーダーに少なくとも1本のHDDを取り付けます。

手順

1. 設定→レコード→ストレージに移動します。
2. HDDを選択します。
3. Init をクリックします。

ネットワークディスクの追加

割り当てられたNASまたはIP SANディスクをビデオレコーダに追加し、ネットワークHDDとして使

用することができます。最大8つのネットワークディスクを追加できます。

手順

1. 設定→レコード→ストレージに移動します。
2. 追加をクリックします。
3. NetHDDを設定します。
4. Type をNAS またはIPSAN に設定します。
5. NetHDD のIP アドレスを入力します。
6. 🔍をクリックして、使用可能なディスクを検索します。

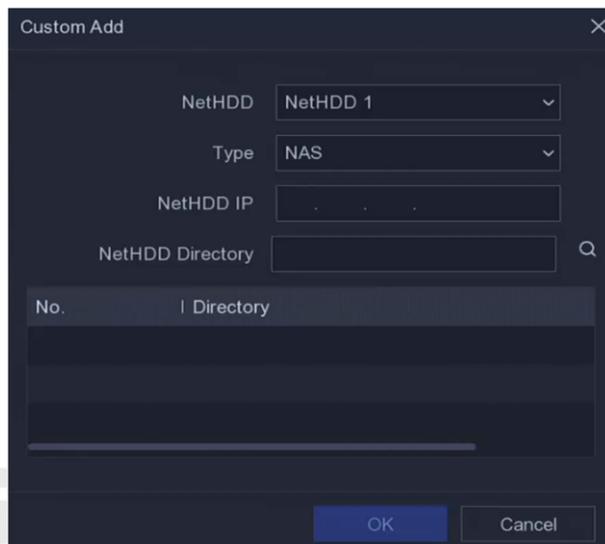


図6-26 NetHDD の追加

7. リストからNASディスクを選択するか、NetHDDディレクトリに手動でディレクトリを入力します。
8. [OK]をクリックします。

結果

追加したNetHDDがストレージデバイスリストに表示されます。

6.5.4 ストレージモードの設定

HDD グループの構成

複数のHDDをグループで管理できます。HDD設定により、指定したチャンネルの映像を特定のHDDグループに記録することができます。

手順

1. 設定→レコード→ストレージモードに移動します。
2. モードは「グループ」を選択します。
3. グループ番号を選択します。

4. HDDグループに登録するIPカメラを選択します。

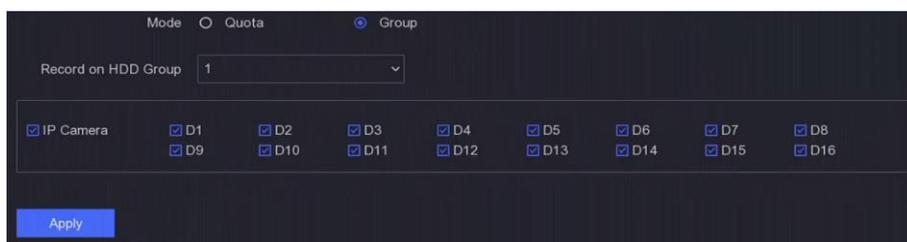


図6-27 グループ

5. 適用をクリックします。
6. ビデオレコーダを再起動して、新しいストレージモード設定を有効にします。
7. 再起動後、設定→レコード→にストレージ移動します。
8. 目的のHDDをクリックして、グループを設定します。
9. 現在のHDDのグループ番号を選択します。
10. [OK]をクリックします。



注

HDDグループ番号が変更された場合は、HDD用カメラを再グループ化します。

HDD クォータの設定

各カメラは、ビデオを録画するための割り当てられた割当量で構成することができる。

手順

1. 設定→レコード→ストレージモードに移動します。
2. モードをクォータに設定します。
3. カメラでクォータを設定するカメラを選択します。
4. Record Capacity に録画容量を入力します。

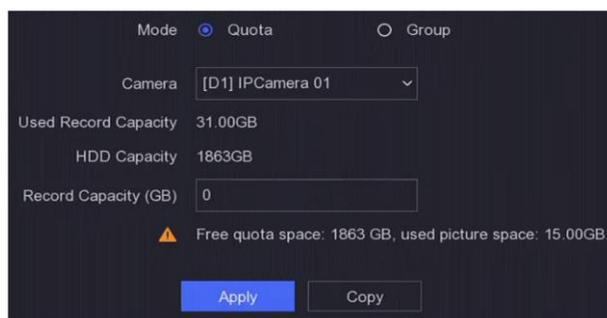


図6-28 見積



クォータ容量が0に設定されている場合、すべてのカメラは、ビデオおよびピクチャはHDDの総容量を使用する。

5. 適用をクリックします。
6. ビデオレコーダーを再起動して、新しい設定を有効にします。

6.5.5 詳細設定

手順

1. 「設定→レコード→詳細」に移動します。
2. 必要に応じてパラメータを設定します。

上書き

- Disable: HDDがいっぱいになると、ビデオレコーダは書き込みを停止します。
- 有効: ハードドライブがいっぱいになると、ビデオ録画は最も古いファイルを削除して新しいファイルの書き込みを続けます。

HDD スリープの有効化

長時間働かないHDDは、スリープ状態になる。

カメラVCAデータの保存

カメラのVCAデータは検索できるように保存されます。

アラーム保存

HDDの空き容量が十分でない場合は、空き容量を節約するためにHDDの空き容量を無効にすることができますが、デバイスはアラーム情報の保存を停止します。

画像保存

HDDの空き容量が十分でない場合は、空き容量を節約するためにHDDを無効にすることができますが、デバイスはピクチャの保存を停止します。

第7章 メンテナンス

7.1 デフォルトに戻す

手順

1. 右上隅のをクリックします。①
2. 復元タイプを選択します。

簡単な復元

ネットワーク(IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、MTU、NIC作業モード、デフォルトルート、サーバーポートなど)とユーザアカウントパラメータを除くすべてのパラメータを工場出荷時のデフォルト設定に復元します。

出荷状態復元

すべてのパラメータを工場出荷時のデフォルト設定に戻します。

非アクティブに復元する

デバイスを非アクティブ状態に復元し、ユーザーアカウントの復元を除き、すべての設定は変更前に戻ります。

3. はいをクリックします。デバイスが自動的に再起動します。

7.2 検索ログ

ビデオレコーダの動作、アラーム、異常、および情報は、ログに格納することができ、ログは、いつでも閲覧およびエクスポートすることができる。

手順

1. 右上隅のをクリックします。①
2. その他をクリックします。
3. ログ情報をクリックします。
4. 検索条件を設定します。
5. 検索をクリックします。

7.3 システムサービス

手順

1. 右上隅のをクリックします。①

2. その他をクリックします。
3. システムサービスをクリックします。
4. パラメータを設定します。

RTSP

RTSP認証を設定することで、ライブビューのストリームデータを特に保護できます。

RTSP認証

ダイジェストを選択すると、ダイジェスト認証を使用した要求のみがIP アドレス経由でRTSP プロトコルによってビデオストリームにアクセスできるようになり、2 つの認証タイプを選択できます。セキュリティ上の理由から、認証タイプとしてダイジェストを選択することをお勧めします。

ISAPI

ISAPI (Internet Server Application Programming Interface)は、HTTPに基づくオープンプロトコルであり、システムデバイス(例えば、ネットワークカメラ、NVR等)間の通信を実現することができます。ビデオレコーダは、サーバとして使用され、システムは、ビデオレコーダを見つけ、接続することができる。

HTTP

admin ユーザーアカウントは、GUI またはWeb ブラウザからHTTP サービスを無効にできます。HTTP が無効になると、ISAPI とONVIF を含むすべての関連サービスも終了します。

HTTP 認証

HTTP サービスを有効にする必要がある場合は、HTTP 認証を設定してアクセスセキュリティを強化できます。2 種類の認証方式を選択できます。セキュリティ上の理由から、認証タイプとしてダイジェストを選択することをお勧めします。

カメラ追加検出

ネットワークカメラの状態を検出します。ネットワークカメラが別のビデオレコーダによって追加されている場合、ネットワークカメラのステータスは、オンラインデバイスリストのように表示されます。🚩

5. 適用をクリックします。

7.4 アップグレード

警告

アップグレード中は、電源を遮断したり、電源を切ったりしないでください。

7.4.1 ローカルアップグレード

開始前に

アップグレードファームウェアをバックアップデバイスに保存し、デバイスに接続します。

手順

1. 右上隅のをクリックします。❶
2. ファームウェアの近くをクリックします。❷
3. Local Upgradeをクリックします。
4. デバイス名でバックアップデバイスを選択します。
5. アップグレードファームウェアを選択します。
6. アップグレードをクリックします。デバイスが自動的に再起動します。

7.4.2 オンラインアップグレード

最新のオンラインファームウェアでデバイスをアップグレードします。

開始する前に

Guarding Vision が有効になり、適切に設定されていることを確認します。詳細については、ガーディングビジョンを参照。

手順

1. 右上隅のをクリックします。❶
2. クリック❷
3. オンラインアップグレードに移動します。
4. 最新のファームウェアをダウンロードします。

自動ダウンロード 最新のファームウェアが自動的にチェックされ、ダウンロードされま
す。

テストアップグレード Test Upgrade(アップグレードのテスト)をクリックして、最新のファーム
ウェアを手動で確認してダウンロードします。

5. 新しいファームウェアバージョンが利用可能な場合は、デバイスをアップグレードします。デバイスが自動的に再起動します。

第 8 章 アラーム

イベントが発生すると、アラームセンターでそれらの詳細を表示できます。

8.1 イベント通知の設定

アラームセンターで通知するイベントを選択します。

手順

1. 右上隅のをクリックします。🔔
2. 必要に応じて、異常、基本イベント、またはスマートイベントを設定します。

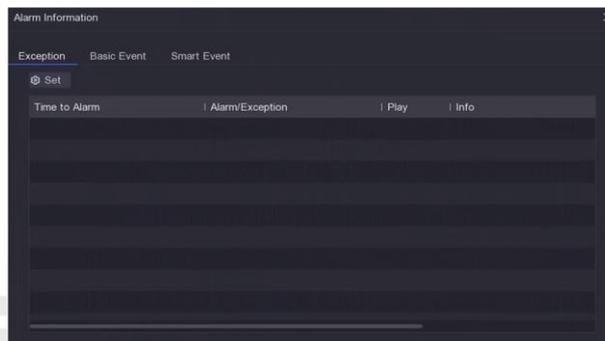


図8-1 警報中心

3. 通知するイベントをクリックして選択します。⚙️
4. [OK]をクリックします。
選択したイベントが発生すると、アラーム情報が表示されます(ローカルメニューの右上隅にあります)。🔔

8.2 アラームセンターでアラームを表示する

手順

1. ローカルメニューの右上隅にあるのをクリックします。🔔
2. Exception、Basic イベント、またはSmart イベント をクリックして、希望どおりに表示します。

第 9 章 Web オペレーション

9.1 序文

Webブラウザからビデオレコーダにアクセスできます。

Internet Explorer 6.0 ~11.0、Apple Safari、Mozilla Firefox、Google Chrome のいずれかのWebブラウザを使用できます。サポートされる解像度は、1024×768以上を含む。

9.2 ログイン

貴社は、インターネット・アクセスを伴う製品の使用がネットワーク・セキュリティ・リスクの下にある可能性があることを認めるものとする。ネットワーク攻撃や情報漏洩を回避するために、お客様自身の保護を強化してください。正常に動作しない場合は、販売店または最寄りのサービスセンターにご連絡ください。

手順

1. Webブラウザを開き、ビデオレコーダのIPアドレスを入力し、Enterキーを押します。



HTTP ポートを変更した場合は、アドレスバーにhttp://IPアドレス:HTTP ポートを入力します。例えば、http: 192.168.1.64:81。

2. ログインインターフェースにユーザー名とパスワードを入力します。
3. ログインをクリックします。

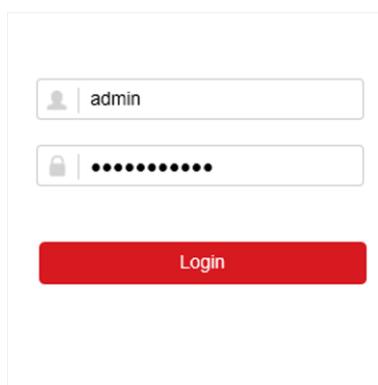
A screenshot of a login form. It features two input fields: the top one contains the text 'admin' and has a user icon on the left; the bottom one contains a series of dots and has a lock icon on the left. Below the fields is a red button with the text 'Login' in white.

図9-1 ログイン

4. インストールプロンプトに従って、プラグインをインストールします。

i注

プラグインのインストールを完了するには、Web ブラウザを閉じる必要がある場合があります。

9.3 ライブビュー

ログイン後、ライブビューインターフェースが表示されます。



図9-2 ライブビュー

9.4 再生

再生をクリックして、再生インターフェイスに入ります。

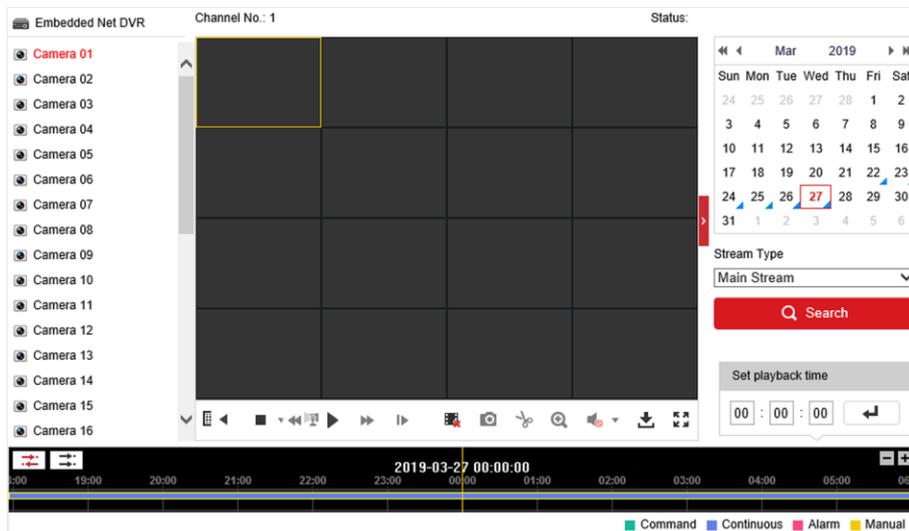


図9-3 再生

9.5 設定

Configuration(設定)をクリックして、設定インターフェイスを起動します。

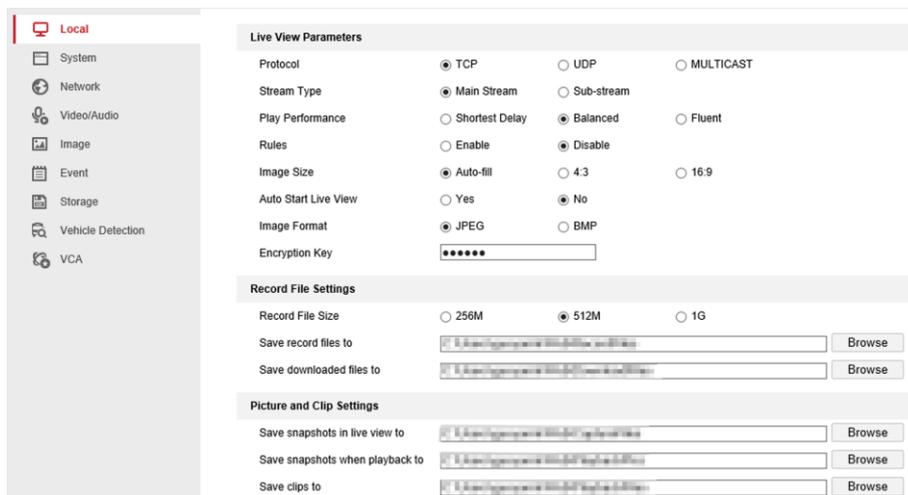
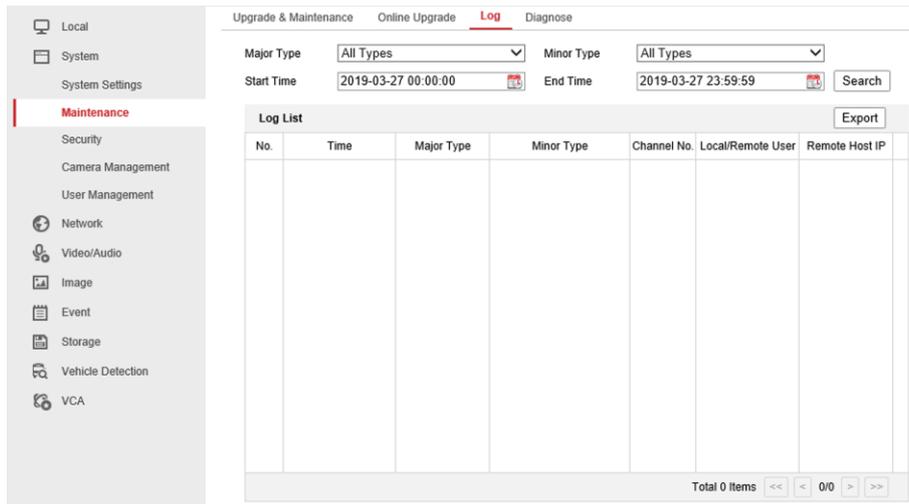


図9-4 構成

9.6 ログ

手順

1. メンテナンス→システム→メンテナンスログに移動します。
2. 検索条件を設定します。
3. 検索をクリックします。



The screenshot shows a web interface for system maintenance logs. On the left is a navigation menu with categories like Local, System, and Maintenance. The main area has tabs for Upgrade & Maintenance, Online Upgrade, Log (selected), and Diagnose. Search filters include Major Type (All Types), Minor Type (All Types), Start Time (2019-03-27 00:00:00), and End Time (2019-03-27 23:59:59). Below the filters is a table titled 'Log List' with columns: No., Time, Major Type, Minor Type, Channel No., Local/Remote User, and Remote Host IP. The table is currently empty. At the bottom right, it shows 'Total 0 Items' and pagination controls.

図9-5 ログ

第10章付録

10.1 用語集

デュアルストリーム

デュアルストリームは、ネットワークを介して低解像度ストリームを送信しながら、高解像度ビデオをローカルに記録するために使用される技術である。2つのストリームはDVRによって生成され、主ストリームは1080Pの最大解像度を有し、サブストリームはCIFの最大解像度を有する。

DVR

Digital Video Recorderの略。DVR は、アナログカメラからのビデオ信号を受け取り、信号を圧縮してハードドライブに保存できるデバイスです。

HDD

Hard Disk Drive(ハードディスクドライブ)の略語。磁気表面を有するプラッター上にデジタル符号化されたデータを録画する録画媒体。

DHCP

DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) は、デバイス(DHCP クライアント) がインターネットプロトコルネットワークで動作するための設定情報を取得するために使用するネットワークアプリケーションプロトコルです。

HTTP

Hypertext Transfer Protocol の略。ネットワーク経由でサーバとブラウザ間でハイパーテキスト要求と情報を転送するためのプロトコル。

PPPoE

PPPoE(Point-to-Point Protocol over Ethernet)は、Ethernet フレーム内にPoint-to-Point Protocol (PPP)フレームをカプセル化するためのネットワークプロトコルです。これは、主に、個々のユーザがイーサネット経由でADSLトランシーバ(モデム)に接続するADSLサービスや、プレーンメトロイーサネットネットワークで使用されます。

DDNS

ダイナミックDNS は、インターネットプロトコルスイートを使用するルータやコンピュータシステムなどのネットワークデバイスが、設定されたホスト名、アドレス、またはDNS に保存されているその他の情報のアクティブなDNS 設定をリアルタイム(アドホック) で変更するようにドメインネームサーバに通知する機能を提供する方法、プロトコル、またはネットワークサービスです。

ハイブリッドDVR

ハイブリッドDVRは、DVRとNVRとの組み合わせである。

NTP

Network Time Protocolの略。ネットワーク上でコンピュータの時計を同期させるために設計されたプロトコル。

NTSC

National Television System Committeeの略。NTSCは、米国や日本などの国で使用されているアナログテレビ規格である。NTSC 信号の各フレームには、60Hz で525 本の走査線が含まれます。

NVR

ネットワークビデオレコーダーの頭文字。NVRは、IPカメラ、IPドーム、および他のDVRのための集中管理および録画のために使用される、PCベースの、または組み込みシステムであり得る。

PAL

Phase Alternating Lineの略。PALはまた、世界の大部分の放送テレビシステムで使用されているもう一つのビデオ規格である。PAL 信号には50Hz で625 本の走査線が含まれています。

PTZ

Pan、Tilt、Zoomの略。PTZ カメラは、モーター駆動のシステムで、カメラを左右にパンしたり、上下に傾けたり、拡大/縮小したりすることができます。

USB

Universal Serial Bus(ユニバーサルシリアルバス)の略語。USB は、デバイスをホストコンピュータにインターフェイスするためのプラグアンドプレイシリアルバス規格です。